

水崎基一著

綜合中學の實現

京都平野書店刊

目次

綜合中學の實現……………一頁

綜合中學の提唱……………一七頁

國民綜合中學校……………三五頁

昭和の御代を迎へて……………二九頁

校運の前途……………三頁

我思ふところ……………七頁

拾年の跡を顧みて……………四頁

ゲリー・システムの學校に就て……………四九頁

淺野綜合中學校設立趣意書……………八三頁

此の小冊子を余の志を憐み多  
大の援助を與へられたる友人  
故三宅駿二君の墓前に呈す

## 綜合中學の實現

### 綜合中學の意義

淺野綜合中學校を創立せしより正に十一年を経過し、此の間度々綜合中學とは如何なる學校なりやとの質問を受けたることあるが、特に自分の記憶する所によれば、大正十一年十月神奈川縣知事として安河内氏の赴任せらるゝや、當時の横濱市長たりし渡邊氏は、横濱市民に紹介する爲記念會館に吾等を招き、始めて知事に會見するの榮を與へられたるが、安河内氏は自分の名刺を見るや否や綜合中學とは如何なる學校ぞと尋ねられたることがあつた。その刹那にお答へしたことは、大學に單科大學と綜合大學のある如く、今日の中學は全く普通科のみの單科中學なるを以て、この劃一を破つて、農工商は勿論その他總べての實業向の教科を授くる綜合中學を設立する意味なりとの趣意を申述べたのである。果して知事が納得せられたるや否やは知らざれど、兎に角説明の近道としては、今日の中學は準備教育の普通科のみを教授する單科中學なるを以て、これに對して藝能を教

へ今日の社會の要求に對應せんとするこそ綜合中學の目的なるを以て、この綜合中學とは何ぞやの質問に對しては、簡潔に大學を引證して説明するを以て捷徑として居る。

## 綜合中學の必要

自分は淺野綜合中學校を創立する前一年間北米合衆國に遊び、親しく同國の中等教育を視察し、實に同國の教育が實際的なるに驚嘆せざるを得なかつた。而してその殆ど凡てが綜合中學としてあらゆる環境の必要に應じて教育科目を實業化せるに感心した。例へば北米合衆國は自動車の使用最も高率なるを以て、殆ど凡ての中學に自動車を修繕する工場或はギャラリーの存せざるものなき程であつた。又農業地方の如きは、殆ど中學校が模範的の園藝場を有して、農産物の展覽會をなす時に於ては、いつも指導者として優等品を提出せざることを無き有様であつた。又最近に於ては北米合衆國の飛行機熱は非常に強く、到る所の中等學校に於て飛行機の模型或は製圖を陳列せざることなき程なりとの事である。斯の如く中等學校も社會の進運に應じて、絶えず實業化、社會化することを感じざるを以て、市民も一層中學に子弟を入學せしむるの必要を感じ、連年入學率を高むるのみ

でなく、小學校の義務年限六年乃至八年を必修とすることは勿論なるが、更に中等學校の四年乃至六年は米國民の義務教育として必修せざるべからざる氣運を醸成するに至つたのである。

我が國に於ては、今日到る所に工場設立を見、既に實社會は産業社會となりしか、はらず、中學教育は依然として舊套を脱せず、更に完備せる實業教育を授けざりしに、漸く本年一月より、中學校の三年生或は四年生より、之を一種二種に分ち、實業教育を施すの便宜を與ふるに至り、他方に於ては一年生より五年生まで作業科を課し、大いに労働愛好の精神を鼓吹せんとするに至りしことは、我が國の教育に漸次綜合中學を實現せんとする曙光と認め、まことに邦家の前途の爲に欣慶に堪へざる所である。文部省がかく時代の要求に應じて新施設を唱導するに當り、都會地の中學校などは之に耳を假さず、東京市に於ても神奈川縣に於ても、縦ひ經費の都合ありとは謂へ、その實行を一年間も猶豫せんとすることは、我が國教育の爲に限なき遺憾の念に打たれざるを得ぬ。要するに社會の要求は目前に迫れるに關はらず、對岸の火災視して教育當局者が之を閉却せんとする傾きありとせば、教育の本義より考へ實に痛心に堪へぬ。

## 甲種實業學校の疑問

文政審議會に於て、中學に於ける職業問題の提案せらるゝや、之に反對する人々は、何故に職業教育を盛ならしめんと欲すれば甲種商業工業農業學校を増設せざる、何ぞ中學教育を破壊して職業化するの必要あらんやとの意見があつたとのことなるが、これは中學教育を以て單に準備教育となし、官吏、教員その他文藝上の文士教育を施さんとする舊習に泥める議論であつて、今日の時代が如何に進展し來りたるやを洞察する明なき僻見と言はねばならぬ。勿論、中等學校を職業學校とするは、中學設立の本旨に非されども、眞に我が日本國民の資格を養成し、今日の時代に適應する市民たらしめんと欲せば、何等實業上の教育なくして、果して國民となり市民となり得べきか。所謂準備教育なるものは、目と耳とを使用するに遺憾なしとするも、手と足を運用することを爲さざる教育なるを以て、夫れにて全き人格を養成し得るであらうか。人は天より與へられたる。あらゆる機能を發達してこそ、教育の本旨に適ふべきもので、今日の所謂中學教育は不具かたはの發達を爲さしむるものにして、全き人間を養成する教育としては、深甚の缺陷あるを認めざるを得ぬ。さればこそ

中學教育に於ても手藝教育を授け、或は園藝に、或は作業に、或は工場に、實際の社會と異ならざる實習を爲さしむるこそ、即ち人を作る所以にして、茲に於て始めて中等教育を完うしたりと言ふべきであらう。

更に今日我が國に於て、甲種實業學校を到る所に設立するの可否に關しては、國家教育の立場より大いに考慮せねばならぬ。自分は明治四十一年より大正七年まで、京都同志社の専門教育に従事し、親しく中學の卒業生及び商業學校の卒業生を同校の經濟科に入學せしめ、共に研究するの機會を得たるが、特別の人材は除外として大體にその志望・抱負・人格等に於て、著しく商業出身者の中學生に劣れるを認識せざるを得なかつた。これ畢竟、當時に於ては甲種商業學校の入學は高等小學卒業生を收容し、基礎學科に於ても劣る所ありしを以て、已むを得ざるものありしならんも、而も元來今日の如く、十四五歳の時より職業教育を授くることは、大なる國民を養成するに對し遺憾の點なきか。餘りに年少の時代より人を専門的に養成するは、國民教育の立場より失當の策と思はるゝのである。獨逸國の如きは、多年年少の頃より専門教育を施し、陸海軍士官の如きは幼時より之を養成してその資格を與ふるを以て、普通の平民は士官たるを得ざる傾きがあつた。之が爲、歐洲

大戦に於て、年少有爲の尉官級の士官が殆ど並死するや、下士より士官に昇進せしむる能はず、之が爲獨逸の士氣を幾何沮喪せしめ其の一敗因となりしを聞いて居る。之に反して北米合衆國の如きは、士官教育はそれ程進歩せざりとはいへ、普通の下士歩卒が、何時にても軍事上の常識を有せば士官に昇進するの機會を與へられ、事實、教育の結果その資格ありしを以て、遂に歐洲の大戦には最後の役目を全うした様である。

我が國の如き、餘りに年少の時代より専門教育に泥み、その器局を偏小にし、周邊に應酬するの常識を缺き、又一方の職業より他方に轉業する能はざる如くならしむるは、全く我が國教育制度の弊と言はねばならぬ。自分は理想としては、今日の如き甲種農工商の實業學校を廢止し、中等學校を打つて一丸とし、皆之を綜合中學として包容せんとするものである。

明治維新は實に思ひ切つたる改革をなせしが、就中、士農工商の階級制度を廢止し、四民を平等となし、國民榮達の途を何人にも公開した事程痛快の事はない。然るに何ぞや、我が國の教育制度は、再び農工商の如き階級制度を作らんとする傾きあり。互に自己の城廓を守つて自らをよとし矜持の傾向を高むるは我が國民教育上欣ぶべき現象とは謂へぬ。寧ろ如かんや、縦ひその教ふる職

業的のことは淺くとも博く、同じ綜合中學に學び、工は商に、商は農に、互に同窓の友誼を結び、同情を以て相對し、而して自己の探るべき最後の方途を自覺するに至らば、國民教育の上にこれ程欣ばしきことはあらざる如く思ふ。

これを要するに、文政審議會の或人が考ふる所は、餘りに眼前のことをのみ考へ、國家將來の大局に鑑み、國民指導の大精神を了解したものと思へぬのである。

## 國民道德の教養

自分が綜合中學に容々たるは、國民道德の將來は大いに中學校の嚮背如何によるからである。若し中學教育を職業教育に傾かしめんか、著しく教養の方面に於て不足を生じ、眞に我が國の國民性陶冶の機關たらしむる能はざるに至るであらう。蓋し、綜合中學創立當初に於て聲明せし如く、我が國に於ては、教育機關を措きては國民道德を涵養すべき社會教育機關乏しきを以て、中學教育に於て一舉手一投足を誤れば、我が國將來の運命にも關する如く思ふのである。

獨逸は十九世紀の當初に於てナポレオンに蹂躪せられ、非常に意氣消沈せしが、一八一〇年に哲

學者フイエテ出で來り、獨逸國民に告ぐるの文を示し、柏林大學を起し、猛然起ちて國民精神を鼓吹せしを以て、遂に六十有餘年を経過して普佛の大戦となり、國運を恢復するに至つた。この度大戦の結果、獨逸は戰敗國としてナポレオン戦争以上の悲境に陥りしに關はらず、同國の教育者及び宗教家等は、非常なる意氣を以て再び國民精神を復興して、獨逸をして強國の間に列せしめんとして、その耐忍努力の點については、人をして感泣せしむるものがある。

若し我が國にして、今日の經濟上及び思想上に於ける危局に鑑み、大いに國民道德の鼓吹を力むるに非ずんば、將來のこと洵に杞憂に堪へざるものがある。然り日本にも識者無きに非ず、言論の機關に於てはその精神的運動を高調せざるに非ざれども、一般の青少年に周到に懇切に精神的指導をなすには十分なりと言ひ得ない。成る程小學校はその課程に於て修身教授もあり、親愛の情を以て子女の薫育に従事せられざるにあらざれども、幼少頑是なきものが十分に國民道德を理解するとは思はれぬ。又中學校以上の高等學校・専門學校に於て、どの程度まで眞に日本國民として自覺すべき點を啓發せらるゝや不明である。幸にして中學教育は、最も性格を作るに順適せる時代なるを以て、この間に我が日本國民として當然有すべき國民性を涵養陶冶すべきである。例へば我が舊來

の國民性に於ては、勞働を賤しみ文藝を尙ぶが如き傾きあれども、今日の時代は華を去り實に就き質實剛健にして最も勤勞を愛好し、孜孜として各自の職分を盡すに全力を致す様國民性の革新を期せねばならぬ。而して斯の如き性格の養成所は中學を措いて何れに求むべき。これ自分が種々の藝能を中學に於て授くることを勸奨すると共に、一面に於ては國民道德を扶植して新時代に適應する新國民の養成を中學時代に期待するを忘るゝ能はざる所以である。その他茲に一々國民道德の要項を羅列せずとも、中學教育は國民道德の養成所として最適の機關たることを信認して已まざるのである。

## 我が國の産業立國

今や我が國は、ある意味に於ては經濟上に於て未曾有の悲境に沈淪せりといふも可なるが、如何に之を轉開すべきかの方策については、自分は國民の努力と協力とに俟つ外途なきを信するものである。今日この産業立國に關する人材を養成する教育機關は多々あれども、中學校はこの間に處して重大なる責任あるを信するものである。然るに從來は殆ど實際上の産業上の知能を與へざりしを

以て、今日中學の卒業生に對し、如何にして我が國の不景氣を打開すべきやと質問するも、明答を與へ得る者は無いであらう。さりながら、もし本年より實施せらるゝ中學制度によつて、三年より五年に至るまで種々の實業上の知識を與ふるに至らば、縦ひ正鵠を得たる判断を爲す能はざるにせよ、幾分か中らずと雖も遠からざる識見を有するに至るであらう。英國の十九世紀末に於ける産業の隆昌、獨逸の二十世紀初頭に於ける工業の興隆、北米合衆國の大組織の交通及び工業の勃興の如きは、主として之を運用する人才の教育に歸せねばならぬ。成る程我が國に於ても、商業教育、工業教育、農業教育等、實業教育機關には著しく進歩の跡を見ざるに非れども、實際上に於て泰西諸國に比し一頭地を抽んずる能はざるものは、その高等の知識を有するものゝ多少にあらすして、寧ろ中等教育機關の産業上に對する教育普及の多寡に關係するを認識せねばならぬ。

試みに日本に於ける工場に赴き、その工場に於ける職工頭フラインの有力なる人材の存するを問はゞ、みな其の乏しきを歎ぜざるものはないであらう。我が國は、有力なる技師、支配人等は高等教育機關によりて養成せらるれども、實際の仕事を楽しみ、所謂下士卒となつて勞働者の十人頭、二十人頭となるもの乏しく、今に無教育の職工頭を以て満足せざるを得ざる有様である。これ自分が工業

に於て、特に中等教育に於て適當なる人材を輩出せざるべからざるを感ずる所以である。

更に商業にせよ、成る程日本國中には幾多の商業學校ありと雖も、自家營業者、或は會社員として、人の手足となつて働く人の乏しきことは、識者の夙に承認する所である。米國の如きは、一般の商店員なるものは、其の九割までは中學校ハイスクールの卒業生にして、大學出身者の如きは割合に少數なるを傳承して居る。思ふに、今日日本に於て、商業の如きも、中等教育を受けたる下働をなす人々は、年頃も働き加減にして、かゝる人は到る所に於て要望せらるゝに拘らず、今の日本の中學教育にては殆どかゝる要求に應ずる事が出来なかつた。幸にこの度の文部省の中學校令施行細則により、中學生にしても幾分商業上の知識を獲得するに至りたれば、若し健全なる身體と明敏なる常識とを有せば、一層中學卒業生に對する就職の途は開けるであらう。

その他、農と言はず如何なる仕事に従事するも、相當の中學教育を受けて社會的知識を有せば、縦ひ事業に對する専門的知能無きにせよ、之を馴致し之を訓練せば、皆その職業を楽しみ、日本の經濟的地位を高むる有力なる人材となるは明かである。

要するに、日本の産業的前途を展望し、今日の教育機關と對照するに於て、自分は綜合中學の如



き教育機關が、實に産業立國の要素たるを信認せねばならぬ。而して、今回文部省がこの方面に一轉歩をなしたることは、我が國教育の上に洵に欣慶事として祝賀せねばならぬ。

## 我が國の精神王國

數年前、文部省は試験地獄の救済策として、人物考査を入學考査の要項とすべきを指示せられたるが、さてその人物考査なるものは如何にすべきやを明示せられざりしを以て、頗る教育當局者は之が實施に際し困却せるを自白せねばならぬ。米國にてはメンタルテストの如きを行へども、之は主として其の人の能力考査にして、人物考査といふことは出来ぬ。又、小學校の内申書なるもの、性格に對する記入も、考慮に置くことは勿論なれど、之が判断は十人十色にして、その表示せる點も、どれまでの確であるやは疑問と言はねばならぬ。更に中等學校に於て數人の教師が人物考査をなすといふも、唯數問を質疑して、其の答辯の言語、態度によつて性格を知ると云ふが如きは、甚だ親切のこと、言はねばならぬ。されば人物考査といふも頗る望洋の感なきを得ないのである。

さればとて、的確の人物考査は不可能なるが爲に廢止すべきかといへば、それはさうでない。有體に言へば、人物考査こそ入學考査の最大要件と云はねばならぬ。今日我が國に於て高等教育を受けたる者の頻々刑律を犯すに至れるものは、要するに、人物考査の第一歩に於て誤れる結果と言はねばならぬ。自分は、教育は實に人物價値の向上を以て最大要件とし、富なくも、位なくも、名なきも、若しその人の人格にして、天地に恥ぢざる良心を有せば、縦ひ其の人は智的教育に於ては中以下にありとも、教育の産兒としては最高級に屬するを信ずるものである。

この意味に於て、若し中等教育に人物教育を一層強調せんとせば、あらゆる科目を教ふるにつけても、皆人間を作るを本意として、あらゆる正しき性格を教養するを主とすべきである。例へば作業に於て勤勉の程度はその人の人物の高卑を判断するの材料となり、學校の出席の規則正しきと否とはその人の規律生活に對する人格を知る標準となり、その他如何なる事にも人物の良否を判断する機會を捉へ、今日の教育に人物こそ最高價値の存するものなることを識認せしめねばならぬ。

かゝる觀察より考へ、自分の信ずる所によれば、今日の高等學校の入學試験の如きは著しく偏智考査にして、殊に記憶力のみを試験するが如く見えて、到底最高教育を受くる人物の價値を知得し得るものとは認めぬ。されば高等學校の入學考査の如きは、須らく中學校長の意見を徵し、學校に

於ける學業のみならず、その人格に於て日本の高等教育を受くべき資格ありやを審査するの必要を認むるのである。又中學校長も、四年間或は五年間その子弟に親炙せし點より、絶へず正確なる個人に對する知識を有し、職業指導の立場より明答を與へて、我が國の人物教育の上に一轉開をなさねばならぬと信ずるのである。

今日、思想問題によつて繁累の身となるもの、出身學校を問はざ、何人も先づ高等學校を稱せぬものは無い。何故に高等學校はかゝる精神上の、或意味より言へば、不具者を生ずるか。この問題については輕々に斷片的の論斷を爲す能はぬとは言へ、而も高等學校長を始め試験委員が入學の際人物考査に對する正當なる見識を有し、之を實行せられたりとは思はれぬ。

明治の初年より今日に至るまで六十三年、泰西の物質文明を吸收するに汲々として、遂に吾等は教育上最も必要なる德育の點に就き殆ど忘れたるが如く見え、又思ひつきたる様に、様々に之を唱導する時もありたれども、今日の道德的訓練は、實に徳川時代の儒教教育にも又武士道にも劣る如く思はるゝ。されば茲に何とでもして一道の光明を認め、人格價值を有せざるものは高等教育を受けしめざる如き社會的制裁を一層高調するの必要を認むるのである。

今日、我が國の中學教育の如く、修身の課程とか、公民科とか、さういふ科目を有せば精神教育を達し得べしと思は、大なる誤である。昔孔子や或はソクラテス基督の如く、周邊に親愛なる弟子を集め、その團體の道德を強くし、高き標準を以て人物の高卑を批判し、造次にも顛沛にも新しき精神王國を建設するを以て志としたるに對しては欽仰の念に打たれねばならぬ。而して三井、三菱その他物質的の財閥に對し、茲に絶大なる精神王國を興し、その團體の批判によつて國民道德を發揚せんとするに至らば、どの位幸であらう。かゝる精神王國を建設すべき萌芽は、先づ中學教育に俟たねばならぬ。眞に中學教育に依りて堅實なる國民思想を教養せば、日本の思想問題は自ら解決せらるゝを信ずるものである。

## 結

## 論

叙上に於て、綜合中學は社會の現況に鑑み、洵に中等教育の機關としては最善の機關たるを説明したと思ふが、思想の未だ精練せざるものあるを以て、十分に自分の考てる所を徹底したとは思はぬ。さりながら、兎に角、雌伏十年の間、文部省も深く悟る所あり、その教育方針に於ても著しく

綜合中學の期待に接近し來り、漸次其實現を見んとするに至りしは洵に邦家の爲歡喜に堪へぬ。併し、自分は今日の文部省の中學校令の新施行規則を以て萬全なりと思はぬ。更に日本の國民道德を思ひ、産業立國の將來を慮り、而して精神王國を建設せんとする猛志に對しては猶前途遼遠の感なき能はぬ。若し天下の識者にして綜合中學を以て我が國中等教育の基準教育となし、我が國の文教の上に新生面を開き而して世界の文化に貢獻せんと欲する自分の微志を看取せらるれば何の幸か之に如かんやである。

## 綜合中學の提唱

世界改造、社會更新の叫ばるゝ時に當りて、教育問題に對し種々の提案の出づるは當然である。恐らく今回の大戰後の經營問題に就き最も深く、最も長く、最も廣き、影響を與ふるものは教育事業の改革であらう。英國にては文部局總裁フィシャー博士が大聲疾呼したる爲、義務教育年限の延長となり、科學教育の普及となり、教員優遇問題の解決となり、一層教育界は賑しき様である。獨逸は今回の戦争に鑑み、平民の教育と貴族の教育の區別を撤廢して、平等普通の教育を施すに至ると稱して居る。米國は夙に民主的の教育を施し來りたるが、此の頃はアメリカニゼーション（米國化）の教育を提唱し、教育行政の統一を唱導し、現在内務省内に在る文部局を獨立の文部省として、大に國民的教育を施さんと企劃しつゝあるのである。

我が國にても教育問題を閑却しつゝありとは謂へない。臨時教育調査會の如きが出來て色々と教育機關に關する提案もあつた様である。又文部省にては意想外にも、四千有餘萬圓を投じて高等教育機關を擴張せんとしつゝある。此等の新建案、新企劃は邦家の爲喜ばしき事であるが、實際我が

國教育の急務であるが又緩急輕重を秤量して、國家機關の生死の樞軸に觸れて居るかは、餘程考へものであると思はれる。

一體露國は何故に崩壊せし乎、これは教育上より論ぜば普通教育の普及せず、國民の中堅となるべき中等民族の存せざるによりざるか。「ハイカラ」の貴族と無智文盲の百姓にては、國は立つべきものでない。獨逸は何故に戦争を起しじめの敗類を招いたか。これは貴族と平民の教育を區分し、軍國主義を鼓吹する貴族的階級を有したるに依らざりしか。これ等は國民の教育方針を立つる上に、覆轍を踏まさる様沈思熟慮すべき點である。

我が國には八百萬人近くの小學校生徒がある様であるが、此等の幼子女は遺憾なき教育を受けて居るか。我が國民の基礎となるべき素質を養成しつゝあるか。自分が米國に向つて教育視察に赴く前、故福島將軍を訪うて、教育上の意見を叩きたる處、一國の盛衰興亡は小學校に在る。自分は各國を歴遊したるが先づ其の國の小學校を見るを常とした。米國に赴けば小學校を見て來いと言はれたのあり〜と記憶する。我が國の都市にては到る所に二部教授が行はれ、運動場も狭く子供は塵埃の内に肩々相摩し嬉々として遊びつゝある。此等を見るときは、米國のそれに比し涙がこぼれ

るのである。車夫馬丁よりも薄給にて國民の基礎教育に従事せよと謂ふは、餘りに無理難題を強ふるものにあらざるか。我が國の教育の緩急問題を考ふる毎に、自分は一日も早くホレースマンの如き人出でされば、國家百年の大策は終に等閑視されぬかと疑ふのである。

小學校教育に次ぎて少しく閑却せられたる氣味のあるは中學教育である。學課目の如きは明治三十二年樺山文部大臣が中學令を發布せられたる以降、殆ど二十年間内容の進歩を見ぬ様である。此二十年の我が國社會上の進歩は驚くべきもので、日露戦争を經過し今回の歐洲戦争にて我が國の商業社會の如きは、新面目を呈するに至つたのである。我が國の生絲も綿絲も外國商館の手を経ずして七、八分通りは我が國民の手を通じて輸出されつゝある。到る所に工場は出來、煤烟の下に働く者も二百萬人以上ある様である。二十年前に死せる人が、復活し來りて東京郊外の大崎より程ヶ谷迄旅行するときは、桑田變じて大小の煙突の林立するに喫驚するであらう。逆も斯る進歩は豫想し得る所でない。然るに教育界は依然として舊課目を教へつゝある。全國を通じて三百二十有餘校を有する中學校は、依然として準備教育豫備教育を施しつゝある。更に社會の要求等に頓着せざるが如く見ゆるのである。

一體我が國の國民性なるものは、何れにて陶冶せられつゝあるか。我が國にては佛教、神道の寺院、神殿にて精神教育を施すには餘りに我等は無縁の衆生となつた。さればとて基督教も未だ國民性に觸れざるものか、教會が英米の如く民心指導の機關たるには未遠い様である。新聞や雜誌も國民の思潮に大なる感化を與ふる事は勿論であるが、これは總てが健全なる教化とも謂へぬのである。又性質上營利の分子も包含するものなれば、國民性指導の任を託するは無理である。要するに卑見にてはドウしても我が國の國民性改造は教育機關に依るの外はない。而して最も國民性陶冶に貢献をなすは中學校である。何となれば青年の危機とも稱すべき十三四歳より十八九歳迄は中學在學中にして、此の時こそはトマス・アノールドの如く新島先生の如き精神教育家が、一生の心血を瀝きて薰育に従事すべき時である。國民の中堅たるべき人格の養成は、此の五年間の成敗に依りて決するのである。

我が國の中學生は十五萬人許りあり、中學程度の實業學校の生徒は十萬人許りある様である。此の二十五萬人は實に我が國の各種の方面に於ける將來の指導者である。國民の中樞となるべき人達である。然るに現今我が國の教育者も、受教育者も、其責任を心より體得して居るであらうか。毎週一時間の修身は如何なる事を教へつゝあるか。智的にのみ流れ受験準備の教育のみにより多くの精力を注がれざるか。又實業學校は前途の職業と報酬等に思慮を費して國民教育の本意を逸し去らざるか。自分は此等の事を思ふ時は那家前途の爲に杞憂を抱かざるを得るのである。

此の人生重要なる青春期の中等教育に對し、自分は綜合中學の制度を提唱するものである。各種の實業學校を統合して綜合中學に包容せしめんと欲するものである。更に特種の陸軍幼年學校も、師範學校も皆綜合中學の分科中に加入せしめんと欲するのである。今日我が國の國民性改造の事を考へ、更に世界の大戦に於ける各國の軍國動員、生産動員の事を考ふるに就けても、特種階級を養成せんとする如きは非常なる誤りである。米國の如き國民皆兵にして十八歳より四十五歳迄の男子千二百萬人が登記して動員する曉に當りて、少數の軍事階級を造りて國防の事に當らしめんとするは、時代遅れの考へである。須らく國民教育として中學生全般に嚴正なる兵式訓練を爲し、軍事教育を施し、一朝事ある時は三ヶ月か六ヶ月にて直に戰場に出づるに足る訓練をなすべきである。軍國の事は陸軍、海軍に委託せるを以て、我が事に在らざる如く思ふ程、國を弱からしむるものはない。更に又今日の戰事行動も、過去の肉弾にて勝敗を決したるとは大いに異り、科學の應用、機械

の力、食糧の多寡に依りて運命を決すべきを以て、國民の總動員をなす覺悟が必要である。此の意味よりするも綜合中學が適當である。

一體十五萬人の中學生は總て進んで高等教育を受けつゝある乎、又受くべき資格あるか。此の點は教育者として中學校長は深く鑑識指導すべき責任がある。毎年の卒業生は二萬に足らずとせば、既に三分の一は中途退學者の如き有様である。文部省は此の二萬の卒業生に對し、高等教育機關の擴張を誇張せられたれども、實際此の二萬人は其の學力に於ても、資力に於ても、又體力に於ても、高等教育を受くる資格あるであらうか。眞に職業指導の見識ある中學校長の眼より見れば四分の一位が進んで高等教育を受くる價值あるやも知れぬ。果して然らば其の四分三か三分の二は中學を以て學校教育終了の時期と見ねばならぬ。既に終了の期とせば是等の學生に對し、相當の職業教育を施すは、彼等をして卒業後無益に精力を消盡し、迷路に彷徨せしむるを避くる唯一の活路である。

米國にても今日の小學八年、中學四年の制度を廢して、小學校六年、中學前期三年、中學後期三年の制度に變更せんと計劃し、現にコロンビヤ大學附屬、シカゴ大學の附屬の兩中學にては之を實行しつゝある。此の前期中學は専ら市民教育を施しつゝあるのである。我が國の中學も、綜合中學

の制度を用ふるとせば、一年生、二年生の時は主として國民教育を施し、我が國の歴史に重きを置き共同生活の道德を教へ、最も手近なる市民道德を鼓吹訓説すべきである。而して勇健なる國民となすには、思ひ切りて體育を奨励すべきである。今日の如く知識を得るのみを教育と思ふ謬想を打破せねばならぬ。三年生より漸次分科して、共通課目を少くし、五年生の時は普通科、商業科、工業科、農業科、師範科、軍事科、水産科等を置き、好む所に従ひ各自専門的の實習をなさしめ、普通科のみに實際學才、資力、體力ある者を收容して高等教育に向はしむる様教導するを以て最も適當の案と考へるのである。

自分は總ての我が國の中學に、叙上の如き多くの課目を悉く置けと云ふのではない。只其の地方の要求に應じ農工商の三科にても中學校に加入し綜合中學となし、今日の如く實業學校、特種學校を分立たせたくないと言ふのである。蓋し經營方法に依りては、經濟上にも非常に節減となるであらう。が自分の主眼とする所は、之に依りて第一士農工商等の階級思想を打破したい。第二各業務に従事するものが相互の理解を得る様にした。第三修養一片の中學校教育にては我が國今日の社會の實際に適せざれば、工藝、商事、農業等の實業教育を施し卒業後直ちに實用の才を發揮させた

い。更に進んで謂へば、法律家もセメントが如何に製造せらるゝかを知り、政治家も動力の何たるを知るは、今日切迫せる社會的要求であると思ふのである。斯る知識と共に獨逸前皇帝の此頃の生活の如く木挽をなし、同皇太子殿下の如く鍛冶に従事し自ら働くに於ても最も妙である。我が國で教育と謂へば文事を習うて官吏と教師を養成するものゝ如く思ふ固陋の封建思想を破りたいのである。要之、我が國の中學制度は今や一大改革をなすべき絶好の時期である。四年を卒業したる者は、高等學校の入學試験を受くるに至りたるを以て、五年生は殆ど受験準備の爲め缺席も多く、行詰りたる様である。其内各種の専門學校にも四年卒業の生徒を受験せしむるに至るであらう。此等の問題は幅狭し來り、終に五年生は、一方には綜合組織の下に社會に出づる實業教育を施すに至るは、當然の道行である。何も好んで米國の眞似をする必要はなけれども今日米國のハイ・スクールが、殆ど總て機械工場を有して自動車の修繕よりあらゆる工藝的實習をなすを觀るに就けても、是非我が國に於ては社會の實際の要求を考へ、殊に社會問題とか勞働問題とか喧傳する時に當り、希くば國民の中堅たり樞軸たるべき智徳兼備にして、兼て藝能を有し、恒産恒心を有する中等民族を養成する爲、自分は心より綜合中學案を提唱し我が國の識者の贊翼を得たいのである。

(大正八年六月國民新聞掲載)

## 國民綜合中學校

本年は本校創立以後七年目に當るが、何となく希望の曙光も見えて我等の志も酬いられ、而して我が國の中學教育も本年は一大展開を爲すべき氣運に向ひつゝ、ある如く思はれて欣快の念禁すべからざるものあるを覺ゆ。

大正九年本校を設立せし當時は我が國の中學校は公私立併せて参百有餘に過ぎざりしが、今は五百有餘に増加した。高等學校や専門學校もこの間著しく増加したるものゝ、中學校の夫れに比しては算術級數の幾何級數に於ける比例なるやも知れず、到底中學卒業生の入學難を緩和する譯にはゆかぬ。他方には公私立の大學卒業生殊に法學士、經濟學士の増加は夥しき様で、一般の不景氣も影響し就職難は聞くさへ氣の毒に堪へぬのである。それが爲、高等遊民の出来るは國家の深憂にあらずして何であらう。

叙上の現實に直面せば、人々が中等教育を以て終局教育となすべき様、壓迫せらるゝは必至の歸結である。更に又我が國の前途を考ふれば將來我が國の中堅たるべき國民として我等は中等教育を

完了したる青年を措きて何人に依頼すべきか。徳川氏の時代には四十有餘萬の武士なるものありて我が國の風教を維持するの責任に當りしが、明治の聖代より大正の御世にかけては如何なる階級ありて我が國民思想の左傾右傾を防止する支持力たるべきぞ。隣邦の露國が無産階級の天下となりしも同國には一方には少數の貴族富豪と、一方には多數の無學なる勞農民のみにして中等階級の存在せざりし爲にあらざるか。英國の政治がたとへ勞働内閣たるも穩健中正なる政治の軌道を逸せざるは、矢張國民の樞軸が常識教育を受けたる智識階級に依りて指導せられ、純乎たる勞働者のみが支配權を握る能はざるによらざるか。

我が國將來の運命は眞に我が國中等教育の指導如何に存することを痛感せねばならぬ。さりながら、今日の如き中學教育にして單に高等教育の準備機關たらしめば果して其の使命を達成し得べきか。現状にて進行せば純然たる偏智教育に流れ、我が國民性を陶冶し人格教育を高調する如きは頗る至難の業と謂はねばならぬ。加之我が國民保健の立場より觀察するも、受験準備の爲何程不自然なる學生生活をなさねばならぬか圖り知るべからざるものがある。之我等が邦家百年の爲最も慎重に我が國中等教育の革新を計るべき時機到來せるを信ずる所以である。

綜合中學の制度を提唱してより茲に七年、種々の事情は我が校に於て之を徹底的に實行する能はざりしとは謂へ、其の志す所は益々痛切に社會の要求に適合するを知る。即ち中學教育も先づ我が國の中學校令の如く獨立の教育機關として我が國の中堅たる國民の養成を主眼とせねばならぬ。而して大に我が國民道德、近頃の所謂公民教育を鼓吹して自治の觀念を養成し、同時に協力奉仕の精神を旺盛にし、物質的利己主義を打破するの覺悟がなくてはならぬ。然るに今日にては其の級の指導者たるべき優等生が漸く自覺の生涯に入らんとするや、忽ち入學難の爲、四年生頃より心頭は受験準備を以て充溢し如何に國民として更に人間としての訓練修養に盡注せしめんとするも、勞多くして効乏しきを知る。若し夫れ我が國の高等學校及専門學校にして受験の要目に人物試験を加へ、人格の高卑を鑑識する明判官あらば誠に我が國の國民道德の爲慶賀すべきも、然らずんば教育人を誤るに至らざるやを懼る。何れにせよ中等教育を獨立の教育機關として其の青春期に於て品性陶冶を第一義とし、一生を通貫する良習慣を長養する能はずんば中等教育は恰も龍を齧きて眼睛を入れざると同一ならざるか。

更に我等の痛心する所は我が國の中學教育に於て、近世生活に最も必要なる經濟人としての教養



を閉却せる事である。準備機關にあらずして獨立機關としては農工商の智識藝能は最も必要である。然るに此等の教育は皆分離して實業教育として分科的に教育せられつゝ、あれども、此等は須らく少年子弟に淺くとも廣く綜合的に教育すること永遠に國家の事を慮る所以にあらざるか。天下に忌むべきものは階級戦争である。其の資本勞働たると、有産無産たると、乃至農工商たるとを問はず、外に向つては我等は舉國一致、國際の地歩を高めざるべからざる必要を知る。此の時に當り階級戦争を誘致すべき原因を去り、餘程近寄り來りたる實業中等教育も皆打つて一丸となし、國民綜合中學校の組織として社會の要求に對應するは實に邦家百年の大計と信するのである。本年は我が國の中等教育も刮目すべき氣運の熟しつゝ、あるを信じ、我が校の上にも一層天佑の豊ならん事を祈るものである。(大正十五年二月稿)

## 昭和の御代を迎へて

昭和の御代を迎へて、昭和の日本國が其の字義の如く昭明であり、平和であらんことは何人も衷心より祈願して已まざる所であらう。大正の御代は幾久しく繼續すべしと思ひたるに、嗚呼先帝大正天皇陛下が葉山灣頭の愁雲と共に神去り給ひ、天日爲に暗く、世は諒闇の悲しみに鎖さるゝに到りぬ、併し帝位は一日も曠くすべからずとの思召を以て、去冬我等の最も敬愛し奉る皇太子殿下が踐祚の式を挙げさせられ、萬世一系の帝位を繼ぎ、我等七千萬の臣民に君臨せらるゝに至りしこそ、恰も天の一方に一道の光明を見る如く、我等哀痛の内にも歡天喜地の情に堪へざるものがある。

草莽の臣たる我等も朝兄の勅語を拜讀し、正襟危坐、如何にして皇恩に奉答すべきやを默念するときは、萬感交も來り只管誠意誠心、涯分を盡すにあるを知れども、更に國運の前途に想到するとき、聖意に鑑み卑懐を述ぶるは必ずしも僭越の罪にあらざるを知る。

明治維新は舊來の陋習を破るを發端とせるを以て、武斷破壊の分子は極めて強かりしが、漸次秩序の回復は法律制度の必要を促し、我が國をして法制國となし、終に條約を改正して、明治二十七

年以後には歐米諸國と對等の國民となるに到りぬ。然れども、此の法律萬能の時代は我が國の精神的文化にどれだけの覺醒を與へたるかは疑はねばならぬ。中江藤樹先生が大學を読み、天子より庶人に至る迄登に是れ身を修むるを以て本と爲すといふ語に感悟せられ、終に近江聖人と尊稱せらるゝに至りたりと謂ふが、余は我が國民が何物よりも先づ精神的基調を根底より確立し、道義の大本によりて日常の生活を支配し、法律に違反せざるは勿論、更に進んで、積極的に人の爲國の爲名利を超越せる純真なる人格者として、昭和の日本に活躍するに到らん事を祈念して已まぬ。

若し世界列國と我が國の富を比較するときは、我等は實に我が國の貧國たるを承認せねばならぬ。恒産なきもの必ずしも恒心なしと云ふにあらねども、概して人情の弱點は生活の不如意より來るものが多い。今日多數の犯罪者、落伍者、不平等家、病人等も米國の富を有せば、左程の窮境に至らざりしやも知れぬ。如何にせば我が國を富國となし得べきか。我が校の創立者淺野翁は、年齡八十の高齡に拘らず、新年の所感として、來るべき二十年間に百億圓の富を増殖すべき經濟政策を提唱せられた。其の志の雄大なる、而して實行力の絶倫なる、到底凡人の追隨し能はざるものありと雖も、一人の志は萬人の志となり、勤儉力行努めて已まずんば、昭和の御代に百億の富を創造するこ

とは敢て難事にあらず。要は實に經綸と人物に在り。我が國の教育機關も醒覺する處あり、昭和の改元と共に一層實際的となり、企業を奨勵し、富國の大策を實現するに至らん事こそ願はしけれ。

歐洲に於ける産業革命は資本勞働の兩階級を生じ、世界大戰は一面に歐羅巴大國に社會革命を喚起して未だ安定せりと云ふ能はず、昨年如き、保守的にして秩序を貴ぶ英國さへも、全國罷工同盟を見るに至りぬ。極東の我が國の如きも、此の波瀾層々たる囀外に立つこと能はず。近年著しく勞働者の頭角を現はし來り、漸次資本家に對抗の氣勢なきにあらず。これ實に已むを得ざる現象なるが如しと雖も、此の際明徹せる經世家ありて社會政策に依りて勞資協調を完うせば、必ずしも階級戰爭の如きを見ずして、共存共榮和衷協同の下に、我が國産業の發達を期待し得るを信ず。一天萬乘の天皇を戴き、而して四面環海なる島帝國は對外の問題に就き未だ曾て舉國一致の實を擧げざる事なし。今日の世界は國際間の經濟戰也。既往に於て軍國の事に就て陛下に忠誠を盡せし如く、須らく經濟の事に就いても大組織の下に規律を重んじ、眼前の小利害に眩せらるゝなく、互に國家の前途と大和民族の將來を考へ、旗鼓堂々英米の壘を摩し東洋の日本には、西洋人の畏怖する如き經濟的葛藤は内に存せざるを實證したきものである。

二十世紀は一面より觀察せば科學の時代である。電氣工學の進歩は無線電信によりて歐洲の事も其の日に知る事を得、米國のラヂオの發達は大統領の就任演説を幾千里を隔つる加州ロサンゼルス市に於て、ワシントンの列會者と同様に聞き得たとの事である。水銀も金となり、滿洲の大豆も石油となる世の中に於ては、向後如何なる發明發見をなすに到るや知るべからず。世間には我が國の人口増加率に就き杞憂を抱きて悲觀をなすものもあり、民族自立主義に依りて朝鮮や臺灣は如何と心配し、不景氣の永續きに喪心しつゝあるものもある。併し、徐ろに靜思大觀せば、左程苦慮するを要せぬと思ふが、憂ふべきは我が國に精勵刻苦、科學の爲に身を投じ、創思一番、科學の新新天地を開拓する大才の乏しき事である。昨秋は太平洋沿岸の大學者が東京に集りて研究の結果を發表せられ、我が國の學者も一頭地を抽んずる者ありたりとの事なるが、自分は昭和の御代に於て、願はくは科學の進歩に依りて我が國の缺陷を補填し、國民生活の前途に對する杞憂を一掃するに到らん事を祈願して已まざるものである。

昭和の日本よ、希くは道義の大本を基調とせよ。國富み人は榮えて生活の安定を得よ。忘るまじきは對世界の立場より國際經濟戰に舉國一致の實を擧ぐる事である。而して、科學文化の進運を吸収し、日々に新にせよとの聖旨に奉答したきものである。(昭和二年二月稿)

## 校運の前途

時勢は絶えず動いて已まない。明治維新は英雄時代であつた。南洲・甲東・松菊等が身を忘れて報國の誠を盡したる時代であつた。爾來六十有餘年、生れ代りたる昭和の維新となり、世は民衆の時代となつた。萬機公論に決せよとの論旨は現實化し、壹千貳百有餘萬人の普通選舉となつた。本年は第一回の民衆議會なるものが成立し、此處に集る選良が今秋の即位式に列するの光榮を負ふのである。之は何たる幸な事であらう。

昭和の聖天子の下、我等は第二の國民を養成する育英の事業に當りつゝあるが、本年は我が校は格別にもその惠福に浴し新校舎も建築せられ、第四回の卒業生を送り出し、又明年は開校十週年に當るを以て、之を記念する爲、本年中に準備するの幸運に向ひたる事は何たる幸ぞとこれ亦感喜に堪へないのである。

更に眼を轉じて我が國の教育界を觀察せば、春來一層新氣運の動きつゝあるを見る。既に手始めとして中等學校の試験制度は廢止せられ、從來の偏知記憶の教育に一大斧鉞を加へられた。此の先

どの方面に改革の烽火が上りつゝあるかは知らざれども、舊來の陋習を打破して教育の新生面を拓くに至る事は誠に望ましい事である。此の試験制度廢止の結果、我等の眼前に展開し來りたる難關は人物考査の事である。學科問題を提出して筆答試験をなし、其の誤正を知る事は容易なれども、僅かの口頭試験問題位にて人を知る事は決して出來得べき事でない。若し夫れにて人を知り得たりとせば、餘りに輕卒速斷ではあるまいか。さりながら我等中等教育に従事する者が、此の人を知る事を餘儀なくせらるゝに至りし事は何たる幸であらう。何となれば、我等は茲に從來より一層水平線を高くし又廣くして、人を知るの機會を與へられたからである。此の機會の善川は確かに我が國の教育界に一波紋を與へ、人格教育に及ぼす影響の多大なるを信じ、國運の爲に慶賀せざるを得ない。我が校に於ては、願はくは此の人物考査に就き最も思慮ある行動を探り、識者の期待に孤負せざるを期するのである。

次に我等の最も喜ぶべきは、我が國の中學教育にも漸次勞作主義の認められつゝある事である。今日の如く、我が國の中學校が普通科目のみを教へ上級學校の準備教育を施すは時代遅れである。當然何か職業教育を施し、深くなくとも廣く教へて其嗜好趣味を喚起すべきである。世の中は今や

産業化しつゝあるに拘らず、社會の實際に縁遠き科目を教へて貴族的に少年を養成するは、貧弱なる我が國民の堪へ難き處である。而して今の儘にて進めば、我が國の教育が終には高等遊民を養成する機關たらざるやを杞憂するものである。勿論我が校にて目下教授しつゝある工場の習習は完全とは謂へない。されど勞作主義を唱道し、勞働の神聖を體現し實際社會に適應する人材を養成せんと欲する區々の微衷は、天下の識者に依りて識認せらるゝを信ずるものである。

嘗に教育の産業化のみでない。我が國の教育が大に地方化に目醒めつゝある事は、これ亦實に喜ぶべき事である。我が國百六拾年の徳川氏の泰平は、對外政策に就き飽き足らざる所も多かりしなれども、各藩對峙して互に鎬を削り敵國外患を見る如く、各地方に特色ある武藝文化を隱忍黙養したるは誠に幸であつた。之あるが爲め、幕末天下紛亂の時に當り雄藩は益々其の蘊蓄せる精力を發揮し、勤王討幕の大旗の下に幕府を倒して維新の大業を完成した。爾來六拾有壹年、中央集權の弊は再び地方分權の必要を認むるに至つた。教育の如きも餘りに劃一主義に流れ、更に我が周圍の都市郷土に對する愛着發展を顧みなかつた。即ち青少年は國家に對し國民として盡すべき義務は教へられたれども、市民として村民として、最も手近なる隣保相助の務は周到に教へられたとは謂へな

い。恐らく中等教育の訓育上渾心を傾注すべきは、市民として又公民として、權義を明確にして之を實行する地方の中心人物たらしむるのではあるまいか。然るに何事ぞ、我が國にては未だ會て中學校を以て市の中心シウツクセンターとなしたるを聞かず、寧ろ中學校は市政村政よりは無縁の衆生の如く閑却せらるゝを見る。學校が之を務めざるにも依るべけれども、當局者が之を利用するを知らざるも誠に遺憾の極みである。我が校の如きは、願はくは市民教育に於ては一頭地を抽いて其の卒業生は勿論在校生も一層市の爲郷土の爲に盡すの精神を養ひ、之を實行せんことを希ふものである。

要之、沈滞せる教育界の動かんとする時に當り、我が校の前途を思へば實に春風春雨一時に來る如く欣躍禁する能はず、敢て筆を呵して所懐を披瀝したのである。(昭和三年二月稿)

## 我思ふところ

昭和四年の新年を迎へていろいろの思ひが心に浮ばないでもない。が申す迄もなく我が校の益々天佑と人助により隆運に向はんことは切なる願である。過去十年間、自分が淺野理事長より御依頼を受けて我が校の事に當りしより、何を目標として進み來りしか。思ふところは必ずしも行ふところではない。併し行はざりしとは云へ、思ふところを述べて更新の元氣を振起するは、御大典後の新年には適はしき事ではあるまいか。

壯者をして走り且つ僵れしむると云ふ淺野翁の學校として、勤勉努力をモットーとし激勵すべき事は度々書きもし、語りもした事なれば繰返す迄もない。けれども、更に自分の心よりの願は、烏澁がましき様なれども我が國に愛の學校を建てたいと念うたのである。それはベスタロヂやフレールに私淑すると云ふ譯ではない。愛なきの學校は教育の花實を見る事が出來ず、砂漠の内を彷徨する様に思つたからである。之に反し愛の蹠に依りて耕したる學園こそは、地上に於ける樂園たるを想はしむる。聖經に「愛は寛忍にして慈悲あり、愛は妒まず、愛は誇らず、驕らず、非禮を行は

ず、己の利を求めず、憤らず、人の惡を念はず、不義を喜ばずして眞理の喜ぶところを喜び、凡そ事忍び、凡そ事信じ、おほよそ事望み、おほよそ事耐ふるなり。愛は長久までも絶ゆる事なし」とある。斯る愛心の種々の現はれは我等の行ひ難きところなるも、而も教育に身を委する者が此の心事を持せば、其の感化力や測り知るべからざるものあると思ふのである。

更に進んで、此の愛心は如何なる學生に對しても、人として天地の間に生れ來りたる意義あるを發見せずには居られぬのである。我等は先づ人の短所を忘れて長所を見ねばならぬ。鈍愚と稱せらるゝ者の内にも愛すべき篤實を認め、不良の内にも捨つべからざる敏慧を識り、こゝに初めて教育の必要を悟了するのである。若し我等が此の個人待遇を忘れて、一把一からけに劃一の形式教育のみ事とせば、眞の意味に於ける教育は出来るであらうか。我等教育者の任務は、恰も南阿のキンバレイにダイヤモンドを探索する鑛夫の如く、人の心の内より隠れたる寶玉を見出すを以て一世の快事とせねばなるまい。

人の心はいつも知己の感に依りて動くものにて、特に我が師が我が長所を識認し、之を指導し之を誘掖するを知らば、誰か感激せずして已むべき。此の意味に於て、自分は豊太閤の如きは大教育家の資格あると信するものである。石田三成、加藤清正も豊公出でずんば一茶坊主、一鍛工として一生を没了せしやも知れず。顔回も孔子に依りて其の眞價を發揮し、プレートーはソクラテスに依りて大哲となり、ペテロは基督によりて傳導の壮志を起し、皆其の天分を達成したのである。茲に於てか知る、一世の師表たるべき人格出で、愛の環境を創造せざれば、一代の風雲を叱咤するの人は容易に輩出するものではあるまい。

回顧すれば最早十年の昔となれど、自分は親しく米國の文物制度を視察し、其の隆昌の原因は青年が實際的にして勞働を貴び、機械に甚大の趣味を有するにあるを知つた。之あるが爲歸來一層我が國民の思想を政治法律文藝等より實際に即したる理科工藝に轉換せしむる事が我が國を興隆する所以なるを信じ、此の點に就き我が國の教育的缺陷を補填せんことを期し、我が校に於ては夙に實習場を設けて幾分の貢獻をなせしが、今や世論も漸やく中學校にも其の必要なるを認識するに到りたるは、國運の爲誠に慶賀に堪へざる次第である。

青年を愛するは、其の青年に對し一生の針路を指導するより大なるはない。職業の指導は、あらゆる仕事を深からずとも廣く教へて、自ら其の得意の點を選択せしむる事が必要である。今日の我

が國の中學校制度は、既往に於ては準備教育機關としては相當の成績を挙げたるは勿論なるが、今日に於ては五百有餘の中學校も設立せられ、中學校を以て最終の學校教育となすものも少くない。さればこそ、實業課目も相當に編入して、たとへ純然たる職業教育たらずとも、職業指導の方向を知る資料となすは當然にして、斯る現代の要求は實に適材を適所に向はしむる捷徑たるを信ずるのである。

愛の樂園を創造せんとするに當り、我が國の世相を観察すれば、道心日に微にしてこの儘に推移せば邦國の前途誠に杞憂に堪へざるものがある。昔は地中を掘れば谷川の清水を發見せしが、今日は表面美なる如きも地中には私利私慾の濁水滔々として横流するを見る。これ生活難と功利主義の旺盛なるに依るべしと雖も、而も我國に於ける教育機關の不備に因するなきを必せず。爲に我等は昨冬十二月十日を以て、今上陛下より教育に關する御沙汰書を拜受するに至つた。

謹んで御聖旨を拜讀すれば、我が國は古代より經國の要綱として教育を第一義として尊重し給ひたるが、明治天皇より大正天皇に至りて一層洪範を申明せられたるを以て、其の遺圖を嗣ぎ、昭和の維新に於て益々人心の踴趨を正しくして大に學藝を振ひ、國運の伸張に資すべき様大御心を勞せ

らるゝを奉承す。誠に畏き極みである。我等草莽に在りて教育に従事する一微臣も「夙夜淬礪祖宗の大訓を光昭にせんことを務めよ」との御聖旨に對しては感激警起せざるべからざるものがある。

我が思ふところは愛の學校であつた。顧みられざる青少年の内にも天命の存するのを見出すのであつた。國家百年の經綸に對し聖旨を體し報國の寸効を致すにあつた。而も力微にして徳足らず、回顧十年、心より愧赧の情禁すべからざるものがある。皇天若し我が志を諒みし、本校設立者及び理事諸氏の寛恕と賛翼を得、更に教職員の協心勦力を得ば、希くば猛省一番、昭和の新時代に我が校の新生面を開く事を努力せんと念ふのみである。(昭和四年二月稿)

## 拾年の跡を顧みて

大正九年より開校したる本校十年の中學生活を顧みて、自分は色々な感想に打たれるものであるが、先づ第一に淺野理事長を始め理事各位が、限なき信任を非才不徳なる自分に與へられ、滞なく今日まで勤続し得たることは衷心感謝に堪へざるところである。次に教職員諸氏のうち五名までは開校當初より協力せられ、其の他の諸氏も多くは五六年以上も勤続せられ、皆我が校として御協力下されたることはこれ亦心より感謝するところである。加ふるに本校に在學せられたる生徒諸君の總員は九百六十有餘名に達し、既に卒業せられたるもの五回にて三百五十六名に達せしが、皆本校設立の趣旨を體し、未だ卒業生として社會の非難を招いたこともなく今日に至つたことは、これ亦深く感謝に堪へざるところである。

設立當初より自分の念頭に深く銘したることは、實に中學教育は一生の性格を確立すべき最も重要時期であることである。大抵人の性格は十三四歳より十八九歳までの間に其の根底を築くものであるが、この時期こそは即ち少年の中學生活である。さればこそこの時期は、人生に於ける最も重

要なる青春の危機として、教育者が最も骨折るべき筈である。本校の如きも最初より特に此の責任の重きを感じ、あらゆる方面より先づ人を作ることを主眼とし、その精力を傾注したりとはいへ、かゝる精神的のことは表面顯著なる成果を見る能はざりしと雖も、而も志の存する所はこゝにありて之が爲在學の少年學生に多少の印象を與へ得たりとせば寔に望外の幸である。

勿論多數の學生の中には不良の者も無きにあらず、この過去十年の間に幾度か此等の不良生を善導し、改過遷善生れ變りたる如き人を見んことを庶幾せしが、願ふこと必ずしも達する能はず、一面に於ては他の無垢なる青年を一二不良學生の爲に悪化せしむるを憂ひ、退校せしむるの餘儀なきに至りしが、敢て其の人を惡むといふに非ざるを以て、退學の際と雖も此等の生徒に對し篤と將來を誡め何れに赴くと雖も必ず過なからんことを説き、分袂せしこと幾度なるかを知らぬ。

次に我が校に於て特に意を致したるは教育の社會化である。卑見によれば我が國の教育ほど實生活に即せざる教育は無い。中學生活の如きは全く普通科のみの課業多く、純然たる準備教育で、中學教育を以て最終の教育と考へて居らぬのである。若し我が日本國に於て、最も多數の人才は如何なる教育程度より出づべきであるとせば、中學教育を以て其の最大なるものとなさねばならぬ。米



國の如きは、中學校を卒業せしものが、商工業は勿論あらゆる實社會に出で、生活の爲に勤務しつゝある。これに反して我が國に於ては、中學校を卒業せし者程就職の困難なるものはない。さればこそ、我が校に於ては夙に工場を建設し、二年生より木工・鍛冶・仕上げ・金工・機械等の簡易なる實習をなさしむることを力めた。勿論その設備も充分ならざるを以て、職業教育としては不満足なりしとはいへ、然れどもその趣味・嗜好を實際生活に向けしむるについては相當の効果ありしを信するものである。

教育は、我が師ジョン・デウキー教授の常に説かるゝ如く、行爲に依つての教育が最も必要であつて、たゞ頭腦をのみ用ふる偏知教育は、決して人をして完きものとならしむるものでない。故に本校の如きは常に工場を設けしのみならず、有志の者には園藝の實習をなさしめ、土に親しむことも亦教育の必要要素なることを信じこれが實行に力めた。更に又修身の科目等に於ては、勞働の神聖なることを力説し、生徒をして勞働を卑しむの陋風を打破せしむることに意を注いだ。

之を要するに學校も亦一の社會なるを以て、少年の時代に爲すべきあらゆることに當らしめ、社會常識を涵養することは中學教育の最も留意すべきものなるを信じ、十年の間この方面に力め、教

育の社會化について意を致せしと雖も、その實行に至つては希望の十分の一も達する能はず、この點については今に遺憾の情に堪へざるものがある。

次に自分が米國に在るの日、ボストンの學務課長キングスレー氏に對し、米國の學生は人生問題に就いて煩悶することありや如何を尋ねたるとき、彼は即時に答へて曰く「米人は健康に注意し、身體の健康なる者は決して人生問題の如きを考へず、たゞ勤勉これ力め、決して神經衰弱症の如きを見ることなし。蓋し人生問題の如きを考ふるは其の身體に何か異狀あるに由來するものならん」と語られたことがある。余は年少の頃、一時人生問題に直面して、非常なる煩悶をなせしことあるを以て、自ら顧みて或は不健康なりし結果にあらずやと反省したことがあるが、まことに米人があらゆる方面より健康に注意することは驚くべき程で、自分がハーバート大學の夏季講習會に出席せし時、公民科の教授としてキングスレー氏が、その第一科目として教授せられたるは實に健康の問題であつた。歸來中學を設立するに當り、絶えず教育に於て最も留意すべきは、年少の學生をして十分にその身體の發育を遂げしむるにあるを信じ、特に體操・遊戲その他の點に於て、自然にのび／＼と發達せしむることを期し、學校の良位置を選び、又飲用水などには特に水道をひきて注意せ

し爲、概するに本校の生徒は、健康の點に於ては同程度の中等學校に比し遜色なきを認め得たることは欣快に堪へざるところである。思ふに、人生最後の勝利はその知能の鋭鈍よりは寧ろ耐久力の多寡によるものであることは、事實に於て證明せられる所であるを以て、人をして先づ健康を完成し、而して益々身體を鍛鍊せしむることは教育の要諦であることを認め、この點については我が校の特色として、中等教育の上に幾分にも貢献せしことを信するものである。

猶、以上人格教育・教育の社會化・學生の健康の外種々の方面に意を致さざりしにあらずと雖も、この三點は特に十年を回顧するに當り忘るゝ能はざるところである。

更に來るべき十年の將來につき、本校の前途を想見するときは、第一に我が日本帝國が工業立國の國是を遂行せざるべからざる時に當り、本校の如き日本に於ける最も必要なる大崎・保土ヶ谷間の工業地帯に存する學校としては、殊更環境の要求に應じ、工業の知識及び技術ある者を養成するの必要を認めざるを得ない。幸にして、本校設立者たる淺野翁の如きは、これが爲にその全力を傾注せらるゝを以て、我が校の如きは、是非とも工業の知識と其の技能とを有するものを輩出し、以て國運の進展に一大貢獻をなすと同時に、創立者の遺大なる熱望に應へざるべからざるを信する。

第二に忘るべからざるは、我が帝國の人口は毎年八・九十萬の増加をなし、到底この狹隘なる領土のみにては就職活動の餘地なきを以て、須らく海外に發展するが爲に一大努力をなさねばならぬ。之が爲には、横濱は日本に於ける最好位置を占め、南米より南洋に向つても、又西比利亞・滿洲・蒙古等に向つても、もし教養よろしきを得ば、この地を中心として海外に多數の移民を送るの機會を得るに至るであらう。されば我が校の如きは、海外雄飛の志を年少の時代より涵養せしめ、外國語をよく習練し、海外に於て家を成すの志を養成することを力めざるべからざるを信す。過去に於ては、唯一人の卒業生が南洋のゴム園に働きしことあるのみにて、寔に寂莫の感に堪へない。さりながら來るべき十年の間には大いにこの點に向つて注意するの必要を感じるものである。

第三に我が國民は多年鎖國のうちに生活せしを以て、たとへ開國こゝに七十年に達せしと雖も、未だ國際の心に通じ、到る處青山ありといふ心持にて外國人と兄弟の如きよしみを以て交際するこゝとは不馴にして、とかくに内氣の傾が無いではない。これ我が國民の短所であつて、將來大國民として到る處に我が故郷を造り、大和民族としてその勢力を發揮するには、甚だもどかしき感なきを得ぬ。かゝる島國根性の内氣なる性格を打破して、萬里の波濤を開拓し、到る處に我が國民を移住

せしめんとするには、思ひ切つてその性格の上に革新を來さなくてはならぬことを思ふ。我が校の如きは、幸にして最も外人の出入する横濱港に在るを以て、これより一層國際心の教養に力め、世界を一家の如く思ひ、益々外人と親しみ、通商貿易は勿論その他あらゆる社交上のことに於ても、日本國民の隠れたる偉大性を發揮せしめることは、教育上最も必要なるを痛感するものである。

過去十年を顧み、更に我が校の前途を展望して聊か卑感を述べたが、幸に在校諸君の一顧を得ば誠に幸である。(昭和五年一月稿)

## ゲリー・システムの學校に就て

(大正八年東京工業俱樂部にての講演)

唯今御丁寧なる御紹介に預りましたが、實は此間中島男爵からゲリー・システムの事を話せといふことでありまして、此頃皆さん御研究の勞働問題とは直接關係が有る譯ではありませぬけれども、併し斯る制度の教育の結果、随分色々今後勞働問題に影響して参りますので、殊に此のゲリー・システムの價値は日本のみならず、亞米利加でも非常に問題になつて居るのです。ロツクフェラーの義捐金に依りて設立せられて居りますゼネラル・エジュケーション・ボードと申す普通教育會があります、此のゲリー・システムを一年有餘に涉つて研究調査しまして、それが爲に約五萬三千弗ばかりの費用を使つて居ります。其の調査の結果を昨年十二月から本年に掛け發表することになりまして、確か十一冊ばかりの書物が出る筈になつて居ります。未だ私の手許には到着しませぬけれども、是程までに亞米利加でも此の新しき試みなるゲリー・システムといふものは如何なるものであるかといふことを、調査して居る譯であります。

此のゲリー・システムの事を申上ぐるに先だちまして、一體ゲリー・システムの學校を持つて居

る所のゲリーといふ市は、如何なる處であるかといふことを皆さんに申上ぐる必要があります。と云ふのは此のゲリー・システムは一面から申せば學校制度でありますものゝ、此の學校と市とが互に相扶け合ひまして、學校の方では市の凡ゆる機關を利用し、又市の方では學校の凡ゆる機關を利用するといふ風で互に相扶け合つて而して學校の機關が好都合に運轉して居る譯でありますから、市を知ることが非常に必要であります。ゲリー市はシカゴ市から三十哩許り隔つて居る所のインディアナ州のミシガン湖畔に在る市であります。此の市は一九〇六年即ち今から十二年前にスチールコーペレーションの社長たるジャツジ・ゲリーが親しく此の土地に参りまして製鐵所をどういふ處に建てたら宜からうと考察中、此處は昔は全く荒涼たる砂原で植物なども出来ない實に荒果てた處でありましたが、此處こそ最も適當の土地であると考へたのです。と云ふのはニュー・ヨーク・セントラル鐵道も亦ベンシルヴァニア鐵道も其の他凡ゆる鐵道が此處を通過する。又シユールペリオル湖の沿岸に澤山の鐵礦が在つて、其の鐵礦を持つて來て色々製鐵事業をやるのに此處が大變都合が好い。同時に人を集めるにはシカゴの附近であつたならば、澤山の勞働者が集つて宜からうといふ考へから、竟に製鐵所の位置を此處に選定し、自分の名を取つてゲリーと命名するに至つたのであ

ります。一九〇六年には殆ど無人の境で、何人も其處に住んで居らなかつたのでありますが、爾後十二年を経過しまして、昨年末には人口幾許有るかと申しますと、八萬一千人有るといふことであります。無人の境であつた處が十二年間に八萬一千の人口が住ふやうになつたといふことは、亞米利加でも殆ど稀有の事で、或る意味から申せば實に奇蹟の様な不思議の發達をしたといふことになつて居ります。

何故此のゲリー市が斯く速に發達をしたかと云へば、申すまでもなくゲリーの製鐵所には唯今一萬二千の職工が居ります。それから米國鐵板工場に五千五百人ばかりの職工が居ります。又アメリカン・ブリツヂ會社といふ鐵橋を拵へる會社がありますが、其處に千九百人ばかりの職工が居ります。又鐵道工場には千六百人ばかりの職工が居ります。さうして斯ういふ工業地に是非無くしてはならない所のセメントの工場―其處に恰度千二百人ばかりの職工が居ります。それからゲリー・スクリユー・ボルト會社といふ色々の螺旋、鋸などを拵へる所の工場が在りますが、其處に百五十人ばかりの職工が居ります。それから自働貨車製造會社といふ自動車の貨車を拵へる工場に百人ばかり、其の上にユニオン・アイヤン・プレート會社といふ鐵板を拵へる工場に四百人ばかり、其の他

全體で職工の數を合計しますと二萬三千五百三十人ばかり此處に集つて居る譯で、此の工場全體の總價額が恰度一億弗ばかりのことです。併し或る人の話に依りますと、此のグリーの製鐵所だけで一億弗の投資にて、尙五千弗ばかり鐵工場に投資するといふことであります。何れにせよ最近私の手許に來ました新聞に依りますれば、一億弗だけインヴェストされて居ることは確かです。さうして毎月勞働者に對し三百萬弗即ち六百萬圓だけ此處で支拂つて居るといふことであります。

一寸御參考までに申上げて置きますが、此のグリーの製鐵所で一番給料を餘計に取つて居る所の勞働者は、鐵板工初め赤くなつて居るものを伸して、大きな鐵板を拵へる職工ですが、一日に五十二弗二十五仙取つて居ります。日本の金に換算すれば約百五圓ばかりになります。日曜は休むとしまして一年三百六十五日の中日曜日を引いて先づ三百日働くとしまして、約三萬圓以上の給料を取つて居る譯で、其の勞働者の出入にはチャント自動車が待つて居るといふやうなわけで、職工と申しましても實に豪いものであるといふことを御參考までに申上げて置きます。

此のグリー市へは今でも五千人ばかりの勞働者がシカゴ其他から鐵道で参りますので、どうしても此處に是だけの工場の職人を集めて都市の建設をなすには、十萬の人が住ふやうにしなければならぬ。そのみならずフライデルフイヤに非常に大きな機關車を造る工場が在る。それに負けない大きな機關車の製造場も建てたいといふので、グリー市に關係を有するシカゴ邊の人々が、大に意氣込んで居る譯でありますから將來の發展は思ひやられます。是が先づグリー市の成立の大體の御話であります。

此處に何故此のグリー・システムといふ學校制度が起つたかと申しますと、必要が生んだとも云へます。此の學校を立てたのはウキリアム・ウアルトといふ人であります。一九〇八年即ちグリー市が出來てから二年目にインディアナ州のブルツフトンといふ處から聘ばれて、教育事業に従事するに至りました。此のグリー・システムの事に付ては大變誤解があります。グリー市の學校は製鐵所で持つて居る學校ではないかといふ誤解がありますが、然うではない。是は公立學校であります。勿論最初製鐵所でジェファアソン・スクールを建てたときには、多少會社から補助をしました。今日市で此の學校の一切の設備を爲し經營を致して居りますので、ウキリアム・ウアルトがインディアナ州のブルツフトンからグリー市の教育課長として招聘されて、さうして一九〇八年から今日まで、此のグリー市の教育事業に熱心に従事して居るのであります。で初めて建てましたジェ

フリーゾン・スクールを此のウアルトといふ人が来てから、自分の理想通りに改造をしたのであります。詰りウアルトは教育といふものは子供をして朝から晩まで絶えず忙しく身體手足を働かしむるに在り、遊ぶ間にも靜的でなく大に動的に身體を働かせなくてはいけない。それにはどうしてもの色々手を働かす手藝工場といふものを持たなければいけないといふので、地下室などは凡て手藝工場に改造してしまつたのであります。

此のグリーの學校は幼稚園から始まつて、さうして亞米利加のハイスクール即ち我が國の中學校まで接続する學校でありますから、幼稚園に入れば十三年間（幼稚園が一年或は二年、小學校が八年、中學が四年）グリーの公立學校に居ることになつて居ります。勿論義務教育として八年間だけは小學校に居りますが、ハイスクールの方には必ずしも無理に入らしむるといふことはしない。尤も彼方では中學でも日本と異つて月謝を取らぬのみならず、本までも學校で皆供給してやるといふやうな譯であります。

ウアルトが此のグリー市に参りまして、第一自分の理想の學校を拵へたのはエマーソンといふ學校でありました。是は市の東北隅に在る學校で、爰にエマーソン學校の圖がありますが随分金を掛けて立派な學校を建てたのです。それで此のエマーソン學校の敷地は恰度十エーカーばかり有りまして、日本の坪數で申せば一萬二千餘坪であります。其の内に大きな運動場を造つた。詰りウアルトの考へでは、學生時代には能く運動をしなければいけないといふのです。さうして構内には植物園も在り動物園も在り農園地も在ります。無論學校の地下室には立派な工場が出来て居りましてそこで澤山の子供が此の學校の工場に這入つて職業を覚えることが出来るやうになつて居ります。

で最近に於けるグリー市の學校の生徒數は、ジェフアソン學校には千人ばかり居ります。それからエマーソンには千四百人、一番大きな學校たるフローベルには二千二百人ばかり居ります。其の他の小さい學校の生徒を加へまして、約六千人ばかりの生徒を、此のグリー市の公立學校總て、收容して居る譯であります。

それで一體何故に此のグリー・スクールがそんなに廣く世間の評判になつたかと申しますと、從來亞米利加でやつて居りました所の學校とは全然流儀が異なるからです。と云ふのは前に申上げましたやうに、此の學校では子供を教育するのに智育丈の片手教育とならぬ様何時も忙しく子供を働かせたり遊ばせたりして居ります。第一人間は働くといふことが必要である。從來各學校でやつて居り

ました所の机に向つて本を讀んだり考へさせたりすることのみを奨めて居つた方針とは全然異りまして、働くといふことが第一に必要である。亞米利加の開國當時に於ては進取の氣象に富んだ人間が米國にやつて来て、成程學校の設備等は不完全に相違なかつたらうけれども、實に働くいたものである。家を拵へる事やら百姓をする事やら凡ゆる事物に涉つて、亞米利加人は昔から非常に活動的に富んで居つて能く働いたものである。所が段々時代が進んで分業が行はれて来た結果、都市に生活して居る所の學生は、學校から家に歸つて来れば餘り働くといふことをしない。途で遊んだり色々くだらない事に時間を費して居る。それではいけない。是ではどうも亞米利加人の何處までも進んで働くといふ昔の進取の氣象が乏しくなつて来る。殊に此のグリーの如き市では種々様々の人種が寄つて来て居る。就中伊太利とか匈牙利とか露西亞とかいふ南歐の人種が澤山来て居る。是等の者の多くは無論職工でありますから、父親は大抵毎日工場に往つて家に不在勝である。母親は英語も碌々出来ないといふ譯で家庭に於ては子供の教育が出来ない。學校といふものは家庭教育も社會教育も共に引受けて教育をしてやらなければいけない。そこでウアルトが此の土地に參つて熟々考へた。如何にすれば此のグリー市に生るゝ所の子供の爲に最善の利益を圖ることが出来るか。そ

れには何うしても學校をば樂しみの場處として、さうして子供が學校に居る時間を長くしなければいけないといふので、グリー市の學校では午前八時十五分に始まつて午後四時十五分に終る。即ち八時間だけは子供が學校に居られるのです。

それで此の八時間の中四時間は、生徒が人間として學ぶべき所の讀書とか算術とか習字とか或は歴史とか地理とか博物とかいふ様なものを勉強する。他の四時間の中二時間は運動遊戯をやる。是は日本などには無いことでありまして、先生が生徒を外に連れ出してさうして一時間側に附いて居て能く遊ばせる。日本でも幼稚園では能く遊ばせる様であります。私がグリーに居る時に幼稚園で遊ばせ、一時間は運動場に出して能く遊ばせる。他の二時間は工場に往く―澤山の工場がありますから其の工場に往つて能く働かせる。働かせるといふのが此の學校の主眼ですから何うしても働かなければならぬ。ウアルトの考へでは人間は身心の發達が片輪になつてはいけない。或る一方にだけ重荷を負はせて或る一方を非常に軽くするといふことでは、人間の身心の發達が片輪になる。全體の機關が周到に一寸も休むことのないやうに働かせなくてはいけないといふので、一方には能く

働かせ一方には能く遊ばせる。そこで他の二時間の中一時間は工場に居つて働いて、他の一時間は時々講堂に往つて先生の話を聴く。それは先生の話を唯聴くばかりではなく、幻燈もやれば或は生徒が自分で話をする。何でも自分がやつて見なくてはいけない。ゲリーの學校では所謂エジューション・バイ・ドゥーイングで仕事をしなければ教育にならない。又セルフ・エキスプレッションと謂うて自己發現といふ事に重きを置き、唯本を色々讀んだり其の他教師の話を聞く丈の注入的教育ではいけない。自分が進んで色々な事を考へたり、色々な仕事をしなくてはいけない。教育の眞意は此に在るといふので、ウアルトは此の點に大に意を注いで居るのであります。

それで工場は何ういふ工場が在るかと申しますと大工・指物・鋸物・鍛冶等の工場が在ります。それからペイントの工場―學校のペイントの仕事は皆生徒がやります。それから印刷工場―爰に印刷した物を澤山持つて参りましたが、是は皆學校の印刷工場で生徒が印刷したものです。單に學校の印刷物のみならず市の印刷物も多少生徒がやります。それから電気工場、それからブラマープラーといふのは鉛管工です。それから靴を拵へる工場―此の學校では生徒が靴を拵へたり或は生徒自身が靴の修繕までもやる。是は男の方ですが、女の方では裁縫とか料理とか―午飯などは學校

で各生徒が拵へて食べる。是は學生の方の經濟でやるので學校では少しも關係しませぬ。それからタイプライターを教へる。又帽子を拵へることまで教へる。

尙そればかりではなしに、人間は土地に親しむことが必要であるといふので、農業もなか／＼獎勵をして居ります。私の往つて居る頃は恰度南瓜の成熟する頃でありましたが、學校の農園に斯んな大きな直径二尺もある南瓜などが澤山出来て居りました。此の學校は凡て市の中心になつて居りまして、何か市で農業の展覧會のやうなものを開催する時には學校が矢張中心となつて、學校の陳列品が何時も賞品を餘計取るといふことで、現にワシントンの方の教育の首位に居る人なども、ゲリーの農産物は非常に良い、南瓜でもポテトでも良いのが出来ると言つて、大層褒めて居りました。私が彼方に居りました時に、恰度彼處に日本より移植した銀杏の木が有りましたが、銀杏の講釋などを聞かされたことがありました。何しろ場所が非常に廣くてエマソンンの學校には一萬二千坪の外に尙新に購入した十エーカー程有つて約二十エーカーの土地でありますから、随分廣潤で斯ういふやうな設備をするのに實に都合が宜しいのです。詰り學校といふものは働く場所である。學校は日本の様な風に實際の世界と異つた、さうして凡て準備的の教育を授けるといふ風でなく、



今日吾々が實際生活の上に爲して居る事を少くとも一通りだけは呑込ませる。學校即ち社會—子供の世界即ち一部分は實際大人の世界にして、さうして社會に出て間誤付かせぬやうにするといふのが、ウアルトの考へであります。

それで其の次には運動です。何ういふ風な運動をするかと申しますと、身體の發育といふ事に付ては非常に骨を折る。第一大きな遊泳場が有ります。是は女の子の遊泳場と男の子の遊泳場と二つ有りますが、春夏秋冬温度を調節して遊泳をやらせて居ります。此の遊泳をするといふことは、身體全體の發達の上に非常に宜しいといふことで、思ひ切つた遊泳をさせて居ります。或は高い處から跳ばせたり、女の子なども實に危いと思ふ様な、恰度日本の輕業師の様な事までも平氣でやらせて居ります。それから無論フットボールとか、ベースボールとか、或はホッケーとか其の他凡ゆる運動を奨励し、さうして大變フットボールのアツシエーションが強いといふことを聞いて居ります。殊に日本など、異なるのは、此のグリーの學校では夜間でも運動をやります。大きな電燈を點けて—何燭光か私は聴きませぬでしたけれども、夜も運動の出来るやうな設備がチャント出来て居りますさうして一方には凡ゆる外遊戯アウトドゲームを奨励して、子供を面白く遊ばせる方法を執つて居ります。殊に彼方

の人はスパートといふと殆ど狂氣のやうになつて騒ぐ。何かスパートのある時分には一萬人も二萬人も見物に往くといふやうな風で、日本で想像の出来ない程野外遊戯に付ては盛にやつて居ります。

それから此の遊ぶといふことに付て面白いのは、學校の動物園などに狸・狐等の動物或は鳥類などが澤山居りますが、其處へ往つて子供が動物と一緒になつて遊ぶ。恰度日本の子供が犬や猫を扱ふやうに狸を抱いたり狐を抱いたりして、嬉々として遊んで居ります。さういふ設備まで此のグリーの學校ではチャント整うて居るのです。詰り運動といふことが此グリーの學校の特色であります。

其の次に學科の方は何うかと申しますと、日本の小學校では一人の先生が一の級を受持つことになつて居りますが、グリー・スクールでは各學科毎に専門の教師が受持つ、乃ち歴史は歴史、地理は地理、物理は物理、化學は化學といふ風に各専門の教師が受持つ。でありますから午前中などは教場の出入が非常に頻繁であります。而も其の専門教師は皆オーソリティーで學科の教授の内容は餘程充實して居るやうに見える。私は歴史の教授などの時に度々往つて視ましたが、先生が生徒に自發的に考へさせる爲色々質問をしたり何かします。殊に面白いのは上級生が來て化學の實驗をする。下級生が其處へ往つて其の實驗の有様を視て他日の資に供する。斯ういふ風に各學科を専門

家に受持たせるといふのがゲリー・スクールの特色であります。

それから今一つ此の學校の大なる特色は、學校を非常に經濟的に經營して居るといふ點であります。ゲリーの學校では他の學校の設備の半分で教授が出来る。これはゲリーの學校の時間表（時間表を示し）でありますが、此の時間表を拵へるのには非常な苦心を要するさうです。何ういふ譯で他の學校の設備の半分で出来るかと申しますと、詰り前に申しました如く、生徒が工場に往つて働いたり、講堂に往つて話を聴いたりして居る間は、其の組の教場が空く譯です。それから學校の内に圖書館が有ります。其の圖書館に往つて本を読んで居る間は其の組の教室が空きます。それから外へ往つたり運動場に往つたりして遊んで居る時には、二時間だけ其の組の教室が空きます。加之此の學校は市の凡ゆる機關を利用する譯なんですから、市の圖書館に學生を伴れて往つて其處で色々本を借りて讀ませたり、或は生徒の希望に依て教會に往つて宗教の話を聴きたければ、教會に往つても宜いといふことになつて居りますから、何時も生徒が教場に居る譯ではない。それで或る組が教場に居らぬ時には他の組を這入らせる様にして、少しも教場だの或は工場の空く時の無い様な風に經濟的に利用することになつて居ります。此の時間割を拵へるのは大變困難ださうです。さう

いふ譯ですから學校の教室全體の廣さはシカゴ等の學校に比較すれば半分で足りる。即ちゲリーの學校で六百人收容が出来るとすれば、シカゴの學校では三百人しか收容が出来ないといふ譯です。さういふ風に此の學校の教室の利用法といふものは非常に行届いて居ります。

それから夜は二時間ばかり夜學校を開きます。此の夜學校へはゲリー市の各工場の職人が澤山来て學校の工場で實習をし、さうして機械の知識や英語杯を修得して居ります。此の頃は年の若い人だけで年取つた人は來ない様でありますが、初めは年取つた人が多く此の學校の工場に來て勉強をしたといふことであります。殊に外から來た人間は英語が出来ませぬから、夜學校で盛に英語の教授をして、さうして成るべく外から來た人間を亞米利加化することを、ゲリーの學校では努めて居ります。

尙七月一日から八月三十一日まで暑中休暇ですが、夏期學校を始め暑中休暇も空しく校堂を遊ばせないといふ方針を執つて居ります。

それでははニュー・ヨークとの比例ですが、八年の小學校と四年のハイスクール即ち十二年間に於けるニュー・ヨーク市で負擔する所の一人當の學費が七百四十八弗八十八仙ださうですがゲリ

市で負擔する所の小學校から中學校まで十二年間に於ける一人當の學費が三百九十四弗二十仙、即ちニュー・ヨーク市の約半額で教育が出来る。而もニュー・ヨーク市の學校では純修養教育だけで職業教育は授けないのでありますが、是に反してゲリー市の學校では設備がチャンと出来て居つて職業教育をも授けるのであります。詰りゲリー市の學生は教習以外に藝を身に附けて實社會に出て來るといふ利益が有る譯です。

この學校の創立者たる所のウアルトといふ人は非常な經濟家で、現に多年學校の經營に關して頗る經濟に長けて居ります。恐らくゲリー・システムといふものが凡ての人にアツブリシエートされて居ると思はるゝ點は、要するにゲリー市の學校が經濟的に運用されて居るといふ點に在ると思ひます。それですから學校の方でも此のウアルトといふ人に思ひ切つて高い月給を拂つて居ります。ウアルトはゲリー市の學校から年俸六千弗ばかり貰つて居ります。さうしてニュー・ヨークの方に働きに往つた時に年俸一萬二千弗ばかり報酬を受ける。兩方で一萬八千弗程の給料を一時は受けて居つたやうな譯であります。ゲリー市の方ではそれだけ給料を出しても、他へ働きに往くことを許しても、其の方が經濟だといふことを考へた譯です。

それで工場などの經濟は凡て自給的でやつて學校の方では少しも關係しないです。乃ち工場で色々な物を學校の爲拵へるとか、或は修繕をしたりする代金は學校から貰ひますが、工場の費用は凡て工場の經濟から支拂ふ。隨つて女の生徒に家政學を教へて裁縫をさせたり、料理をさせたり、洗濯をさせたりする費用も其の部の經濟で支拂つて、學校の方では是に關係しないといふことになつて居るのであります。

此のゲリー市の學校の最近の經費を調べたものを貰つて來ましたが、一八一七年から一八一八年に至る一箇年の費用が五十二萬三千六百五十五弗六十三仙でありまして、恰度日本の百五萬圓有餘に當りますが、あれだけの設備であれだけの經濟を運轉して居るといふことは、日本の方とは比例して見ませぬが、シカゴとかフィラデルフィヤとかボストン等の學校の經營方法とは非常な差異があります。此の點に就てこそは實にウアルトの働を認識しなければならぬと私は考へたのであります。

それからもう一つ此のゲリー・システムの特色は、學校が矢張市の運動の中心であつて市は學校を利用し、學校は市の凡ゆる機關を利用するのであります。例へば學校のオージトリウムなどは市

民の爲に公開して居ります。爰にオージトリアムの圖が有りますが、(圖を示し)斯ういふ講堂を學校が持つて居りまして、何か市民の集會のある場合には之を自由に使はせる。無論選舉運動などの爲にも使はせまじし、或はルーズヴェルトとか其の他知名の人が来て演説をするときには、市民が其處へ集つて演説を聴く、凡て學校が市の中心になつて市の爲ならば何事でも盡すといふ考へで、學校を經營して居る譯であります。

それから大變面白いことには學校の生徒が衛生試験みたやうな事をもやつて居ります。即ち學校にそれだけの設備が有つて、生徒が牛乳の良否を試験したり、或は石炭の良否を試験したり、其の他種々の試験をして居ります。殊に衛生の事に付て面白いことは、町の掃除までも學校の生徒がやつて居ります。道路に穢い物が有ればそれを取棄るとか、或は泥を取除けるとか、勿論町にて掃除をする所のコンミティーが有りますけれども、學校の子供に手傳をさせて町を清潔にするといふ事までやらせて居ります。

殊に私が亞米利加の教育上に付て非常に感心したのは、最近著しく進んだ所の市民教育(シヴ)の事であります。日本の教育の様に忠君愛國といふ最初からむづかしい事を教へるのではない。人の

爲に何か働きの出来る事ならば何でも人の爲に盡す。例へば道路に塵芥が在つて通行に不便ならば町の者がそれを取除けて綺麗にするといふのが當然の務で、ゲリー市に住んで居る者は、ゲリー市の共同生活の爲に何事でも盡さなければならぬといふことを教へて、學校の生徒をして市の衛生の事までもやらせて居るのであります。

それからゲリー市は禁酒市で工場の職工には一切酒を飲ませない。さういふ事も學生が注意するさうして學生にさういふ事をさせないのみならず、萬一學生に不取締の事があれば、學生が互に規範を加へるといふやうなことで、學校が市の爲に凡ゆる力を盡して悪い人間―浮浪人などは成るべく市に入れないやうにして居ります。私の居りました時分は大變景氣が好かつた爲かも知りませぬけれども、私はゲリー市で一度も乞食に出逢つたことがありません。亞米利加のやうな處でもニューヨークの下町などへ往きますと、随分乞食が居りますが、ゲリー市には一人も居りませぬ。斯ういふ點に就てはゲリー市の學校と市のコンミティーとは協同一致の行動をして居ります。

そこで御承知の通り、亞米利加で自由公債を募つたり、或はウォーア・スタンプ即ち戰爭郵便切手を政府が賣つたり何かした時分に、學校の生徒が非常に骨を折りました。學校の生徒が熱心に言ふ

と何うしても断はることが出来ないといふ風で、頗る賣行が好かつたといふことであります。斯ういふ風に學校が市の爲又進んでは亞米利加全體の社會の爲に盡すといふ精神を養つて居ります。

今度の戦争に亞米利加が何で勝つたかと云ふと、一つは新聞が非常に助けた。もう一つは教會が骨を折つた。もう一つは學校—小學から中學進んで大學、凡ゆる學校が一致協同して力を盡した爲に、亞米利加がああいふ大きな仕事が出来た。所謂新銳の元氣を以て戦に臨んで勝つたのでせうが學校の骨折が與つて大なる力の有つたことは明々白々なものです。ゲリー市では自由公債の爲に三萬弗位應募し、亞米利加合衆國の爲に盡す所の精神を大に表現した譯であります。私の居りましたときに、ゲリー市にルーズヴェルトを招んで—ルーズヴェルトはゲリー市では非常に持てる人でありますが—自由公債を募る時分に演説をして貰ふ積りでありましたが、同氏は病氣の爲に遂に來られなかつたけれども、兎に角さういふ公共の爲に盡すといふ精神を起す、其の精神の根源が何處に在るかと云へば即ち此の學校に在る。學校に、往つて先生が生徒に話す事を聽いて居りますと、學校の生徒は市と互に扶け合つて市の爲に力を盡さなければならぬといふ、所謂公共の精神を頻に鼓吹して居ります。詰り學校が市の中心となつて、共同生活の爲に働かねばならぬといふ精神を子供の

時から吹込んで居る譯で、是が日本の學校の教育の仕方と大に趣を異にして居る點であると私は感じたのであります。

以上申述べましたやうな譯で、ゲリー・システムの特色は第一に非常に働くといふこと、さうして遊ぶといふこと、さうして勉強をしないことはありませぬが勉強は何處までも専門的にやる。又學校の經營は極めて經濟的にやるといふやうな事を申上げましたが、斯ういふ從來の亞米利加の教育と異つた所の遺方、即ち八時間も學校に置いて色々の事をさせるやうにしたといふのは、一面から考へて見れば、此のゲリー市自體の必要からさういふ風にさせたのであります。勿論ワアルトの考へたゲリー市の市民は多くは職工であるから家庭教育が行届かぬ。市に斯ういふ學校を拵へて詰り家庭教育まで引受けてやるといふことになつたのは、其の土地の必要がゲリー・システムといふ教育を發達させたのであらうと思ひます。殊に亞米利加では最近に於て、人間は職業教育をしなければいけないといふことになつて居ります。日本の小學校では工藝とか或は機械とかいふ事は殆ど教へない。中學校も高等學校に入る豫備教育である。私は今度單にゲリー市の學校ばかりではなく、亞米利加の凡ゆる學校を視ましたが、ハイスクール、所謂日本の中學程度の學校で工場の無い學校は

殆どありません。社會が生産社會—生産社會が工場制度で、從來の家内工業が止んだ以上は、學校でそれを教へないといふ筈はない。學校で其の知識を與へないといふ筈はない。學校は何の爲に在るかと言へば、矢張り社會の一員となる人間を拵へる爲である。太平洋沿岸バンクローザンジュルスまで下つて、到る處のハイスクールを視ましたが、殆ど機械工場の無い學校はありません。亞米利加の中央政府は一昨年即ち一九一六年スミス、ヒュース法によつて職業教育を勃興する爲に七十五萬弗を補助しましたが、一九二六年即ち十年間目には一年間七百五十萬弗を中央政府が補助する。各州も此の補助金と同額即ち七百五十萬弗出して雙方で千五百萬弗—日本の金で三千萬圓を職業教育の爲に毎年支給するのであります。是は單に工業ばかりではなく、農業の方面にも、亦女子の家政學、さういふ方面の教育の爲にも投ずる。又一面に於ては教師を拵へる爲に、一面には學校の設備の爲にも補助するのです。斯の如くにして此の頃亞米利加の政府は、職業教育に對して非常に力を盡してやつて居ります。この職業教育を授けるといふことは、亞米利加國民の生活を善くする爲にやるといふことばかりではない。深く教育上の立場から考へて、人間が人間として世の中に立つ上に於て、唯本を讀んだり、物を考へたりするだけではいけない。此の世の中に法律を職業

とする辯護士もセメントといふものは何うして拵へるかといふことを知るのが必要だ。政治家も亦モーターは何ういふ風に動くかといふことを知らなければならぬ。今日の社會は昔とは異つて眼界が非常に廣くなり水平線が高くなつて來たから、其の水平線に應ずるだけの凡ての科目の内容範圍を擴げなければならぬ。人間が完全に發達するには、凡ての事が普遍的に發達をしなければいけない。例へば運動の事を知らなくては社會の一員となる資格は無いといふ譯で、教育の見地は何處までも廣く高くしてさうして、假令それを教へることが深くなくとも、廣く凡ての事を人の腦髓に入れ、而して之を體現してやらなければいけないといふことになつて居ります。

そこで最後に申しますが、私が亞米利加に往つて亞米利加の教育専門家に言はれた事は、どうか日本の教育が獨逸の教育みたやうに餘り凡ての事が専門的に分科的に流れないやうして欲しい。さうして將來階級戰爭の起らぬやうにすることが非常に必要であると。是は私が附けたりに申上げるのであります。日本には陸軍の幼年學校が有つたり、學習院が有つたり、或は甲種商業とか甲種農業とか甲種工業とか、凡ゆる枝葉の學校が在りますが、亞米利加にはコンプレヘンシヴ・ハイスクール即ち綜合中學校といふものを設けて、此の綜合中學校に入れば商業も工業も農業も、其の他

の普通學も教へる。それで將來凡ゆる職業に従事する人が相互に能く知合つて、さうして社會に立つときには互に同情を持ち理解を持つて立つやうになる。日本のやうに各階級が互に隔離して居つては、日本の將來を誤まるものである。或は工業閥とか商業閥とか軍閥とか農閥とか、種々の閥が出来て階級戦を惹起するやうになつて、詰り日本の發達を妨げることになりますから、どうか日本の學校でも工業も商業も軍事も凡ゆる事を教へるやうに、小學校も綜合的の小學校と爲し、中學校も綜合的の中學校、高等學校も綜合的の高等學校と爲して、さうして凡ゆる事に同情を持ち理解を持つやうにしなければ、偉大なる國家的動員はどうかと思ひます。今日の狀態では餘り分科的になつて、例へば工業に従事する所の技師は經濟の知識が無い、經濟の知識ある經營者は技術の知識が無いといふ譯で、社會が柄鑿相容れぬといふことになりはせぬかと考へますから、日本の將來の教育は根柢から改造して、今申上げました綜合的のゲリー・システムのやうな組織で、小さな子供の時分から工業の知識を興へるといふことになれば、日本の社會も善くなり教育も大變善くなつて、思ふやうに行くではなからうかと考へるのであります。どうも色々な事を長談議致しましたが、多少皆さんの御參考にもなりますれば本懐至極であります。(拍手)

### ●問答速記録

○問 今ゲリーの學校でやつて居る靴を拵へるとか印刷をやるとかといふ生徒は、矢張十二年間さういふものをズット通してやるのですか。

○答 それは一通り覚えさへすれば宜いのです。併し自分がそれを以て將來身を立てようと思へばズット通してやつても宜いのですが、科目は學年毎に替つて行くので、必修科目を學ばねばなりません。斯る手藝科目は隨意科になつて居ります。

○問 其處を卒業した者は身を立てる上に何等の束縛もありませぬか。

○答 束縛は何もございませぬ。學校では詰り國民教育みたやうにやつて居るのです。斯ういふ教育を受けた者は高等學校に入つても善く出来るし、常識に富み、事物を能く理解して大變に成績が良いといふことです。

○問 唯今大要御話を承りましたが、御承知の通り日本では現今此の勞働問題が大分諸方で研究されて居りまして、職工教育といふことが必要な事ではないかといふやうな御話も出て居ります。そこで亞米利加で如何に職工を教育して居るか、例へば此のゲリーの學校などで子供を教育する

と同時に、職工なども、何ういふ風な教育に觸れて居る點が有るであらうか。其邊に就て貴方の御考へも御話下されば大變仕合だと思ひます。

○答 此間白石さんの御話がありまして、私は職工の教育の事に就て特別に調べた譯ではありませぬけれども、何ういふ風に此の職工を教育して行くかといふ事を一寸調べ掛けて見ました。此の職工の問題に就ては亞米利加でも大變に考へて居る事でありますから、私の調が未だ充分ではありませぬけれども、先づ重なる五箇條ばかりの事に就て簡單に申上げて見たいと思ひます。

第一に職工は何うしても家庭の主人として價値有るやうな風の教育をしてやらなければならぬ。亞米利加人はさういふやうな事を非常にやかましく言ひます。どうも亞米利加の市民として家庭の管理が善く行届かぬ。子供の世話が善く出来ないといふやうな職人は矢張り職人としての資格は無い先年私が倫敦に居りました時に非常にお世話になりましたシドニー・ウエブといふ人を鐘紡の工場や其の他の工場に伴れて往つて見せたことがあります。それは私自身の考へでは、日本の職工教育といふことは兎も角として、職工の手當が斯ういふ風に行届いて居るといふ状態を見せる考へであつたのです。所が同氏が私に何ういふ事を申したかと云ひますと、水崎君一向感心しない。あれで

はいけない。何故かといふと一體此の工女といふものをあんな風な寄宿舎みた様な家に住はせて置いては家庭といふことの考へが何うしても起らない。で若し將來日本が本當に勞働問題を解決しよう、職人の手當を善くしようといふのには、家庭の人と爲ることの修養を積ませなくてははいけない其の意味から申せば假令家が小さからうが又そんなに立派でなからうが、矢張り別々に家を拵へて住はせなくてははいけない。其處には親も居り兄弟姉妹も居るといふ風にして、工女が本當の家庭といふものを持つて、さうして其處から工場に通つて働くやうにしなくてははいけない。是は先程中島さんに一寸御話をしましたが、私の國の信州岡谷の製絲工場などへも往つて寄宿舎を見ましたが實にミゼラブルな有様だ。あんな事をして生活した婦人が、第二世の日本人を拵へるといふことは到底出来るものではない。是は日本の將來の爲に實に考へなければならぬとウエブ氏も言つて居りました。それで職工の取扱といふものは教育も固より必要ではあります。矢張りチャンと立派な家を持たせて、恰度家庭に在つて一家團圓して楽しむ様な設備をしてやらなければはいけない。亞米利加にしろ英吉利にしろ大きな工場で職工の待遇が善く行届いて居るのは、何ういふ點であるかと云へば、立派な家庭を持たせてやつて、さうして其の家から工場に出て働く。詰り工場に出て一生懸



命に働いて家に歸つて來れば一家團欒して樂む。斯くしてこそ其處に立派な職人が出来るのである。寄宿舎に居るとか若しくは家庭から通ふにしても、家庭が善く行届いて居らないで、始終細君に何とかんとか言はれるやうなことで、工場に往つて働いても仕事の能率を上げるといふことは到底不可能である。それであるから職工には矢張り家庭生活を味はせなければいけないといふことを申して居りましたが、今度亞米利加に往つて視て熟々私は其の事を痛切に感じました。成程家庭を善くしなければいけない。家庭を善くしなければ職工が落着かない。

そこで今度私は淺野さんに申上げました。一番肝要なのは學校みたやうなものを拵へて、職人の子供を世話してやる事である。世界で日本人程子供を可愛がる國民はない。それがありますから、職工の子供を世話してやる學校を拵へてやれば、職工の仕事の能率が高まるに相違ない。此の職業學校は色々の方面から説くことも出来ませうが、所謂恒産有れば恒心有りであるから樂に生活の出来るやうな風にして、ハッピー・ホームを持たせるやうにしてやらなくてはいけない。さうして職工を家庭の主人として價値有るやうな教育をすることが必要であるといふので、亞米利加邊ではさういふ職工の教育方法を執つて居るやうな譯であります。

それから職工が勞働時間以外の閑を如何に使ふかといふことです。是は職人に音樂の知識を與へるとか、或は日本で云へば寄宿に往つて立派な義太夫を聴くとか、或は浪花節を聴くとか、向ふは先づ主に活動寫眞ですが、職工が如何に此の閑を潰すかといふことに付て注意をしなければならぬ向ふでは土曜日曜などには職工自身がパートして樂しむ。驚くべき事はニュー・ヨークの公園に往つて見ましても、シカゴの公園に往つて見ましても、土曜日曜などには職工が一家舉つて公園に往つてサンドウィチのピクニック等にて楽しんで居ります。そこで勞働者が此の閑を善く利用するといふことを指導してやらなければならぬ。さうして酒を飲んだり詰らない遊場に往つたりしないやうに或はスポーツを奨励するとか、或は音樂の興味を持たせるとか、くだらない事に頭を使はないやうに悪い者が這入つて來てもさういふ者の仲間に入らぬやうに、閑を善く使ふといふことが必要であるといふことを、職工教育に付ては非常に注意して居ると私は觀察致しました。

それから亞米利加では先程も申上げました如く、市民としての義務といふことを大變やかましく言つて居ります。是は亞米利加のやうなデモクラシー國では、職人も資本家も役人も商人も、凡て誰でも市民として一人前になることが必要であるといふことを自覺して居りますからです。先刻申

上げました一職工にして日本の總理大臣よりも月給を多く取つて居る者がある。一箇年に三萬圓も取つて居るといふやうな譯で、彼等は無論市民としての凡ての義務を負担して居るのであります。ゲリー市邊では今度の戦争の爲に誰が一番餘計金を出したかと云へば、職人が最も多く金を出したのであります。亞米利加人は社會の爲人の爲には、何でも眞先に盡す。日本人は君の爲國の爲には一身を犠牲に供して盡すといふ精神が強い。是は西洋人などから見れば非常に善い所だと思ひますが、楮亞米利加人は金銭上の事になると何うとか斯うとかいふ非難も色々ありますけれども、いざ公共の爲といふ事になると昔よりビュリタンの養つた犠牲と奉仕の精神は實に強いもので、出すべき金は吝まらずに出す、日本人は愛國心が強いとか何とか云ひますが、どうも公共の爲盡すといふ精神が乏しいやうに考へます。亞米利加人は公共心に非常に富んで居りますから、隨つて團體生活の力が非常に強い。例へば往來に塵なら塵が落ちて居れば市民の爲にそれを取除けるとか、或は電車に乗るにしても能く注意をして、入口に立つて人の邪魔になるやうなことは決してしない。日本人でも乃木大將などは一私は乃木大將が西洋の道徳といふ事をどれ程理解して居られたかは存じませぬけれども、自分が俾の上で巻煙草を喫んでも其の吸殻を決して往來などに棄てない。自分でチャントそれを始末して俾を降りられたといふことであります。又電車に乗つても人の邪魔にならぬやうに注意をして居られた。自分が内に這入れば人の邪魔になるから外に立つて居らつしやつた、斯ういふ事は何でもないやうであります。矢張り市民道徳でありまして、流石に乃木大將は斯ういふ事にまで細心の注意を拂はれたといふことは、實に敬服すべきこと、思ひます。所が日本人の多くは電車に乗るときなどは人を押除けて、吾勝ちに乗るといふやうな譯で、市民道徳といふものは毛頭考へて居らない。殊に勞働者などは動もすれば腕力沙汰で得手勝手な事をやつて居る。亞米利加邊では市民道徳を盛に鼓吹して、人の爲に思遣りをするといふことの精神を強くしなければならぬ。さうしていざといふときは公共の爲に盡すといふ精神を強くしなければならぬといふので、市民道徳といふことを勞働者に盛に鼓吹して居ると聞いて居ります。是は申すまでもなく道徳上の品性を非常に高くする。隨つて品の悪い事は決してしない。英吉利や亞米利加邊の勞働者が非常に氣品が善いといふのは、蓋し其邊から來て居ること、思ひます。

又勞働者も恒職有れば恒心有りて、敢て恒産といふ程のものが無くても、恒職が有ればどんな處へ往つても、自分が此の手腕さへ持つて居れば生活が出来るといふ所の自重心が強くなる。隨つて

自分が堅固な道徳性を持てる譯なんです。所がどうも日本人には熟練な職工が餘り出来ない。不熟練な職工ですから一つの職を覺えただけでは、棄てられた時に生活が出来ないといふので、一つの工場に永く落着いて居ない。彼方此方轉々して歩く。随つて道徳心が低いのかも知れませぬが、一つの職業に熟練して居れば自重心が強くなつて随つて道徳心も強くなつて来る。神様などの事は知らないにしても陰日向な事はしない。一般の職業に最も必要なのは監督を要せぬ事でありませぬ。監督者が幾人か居つて仕事をさせるといふやうなことで決して能率が上りませぬ。日本人も宗教心があるが無からうが、監督者が居らうが居るまいが陰日向なく、働くさうして是が自分の正しき務であるといふ考へを持つ様にならなければ、何の仕事でも決して能率は上りませぬ。それだから何うしても職工の道徳上の品性を高めなければならぬといふことは申すまでもありませんが、詰り職工教育の方面といふものは仕事を樂しんで、我を忘るゝといふ事に注意をしなければならぬ。今日の日本の職工の如く仕事の出来ない癖に我儘勝手な行動をしてなるべく油を賣りたいと云ふやうでは、日本の工業といふものは決して發達しないと思ひます。私は經濟學などの事は深く申しませぬが、日本の産業革命の際には願はくは西洋の轍を履まないやうに、都合好くやつてのけて、完全

なる日本の工業社會を見たいと考へて居りますけれども、此頃の形勢ではどうも私の考ふる所に依れば非である。そこで今申上げましたやうに職工の教育といふものを善くして、さうして勞働者が互に自己の責任を重んじ、無責任な事をやらずに、落着いて職業に就くやうにならなければ、今日の氣分では日本の産業革命といふものは何うであらうかといふことを考へて居ります。さうして根柢論としては先程申上げましたやうな教育―それは色々の外の點もありませうが、唯今申上げたやうな第一に價値ある家庭の人となり、第二に閑を善用するのを知了し、第三に市民の務を自覺し、第四に職業を樂しんで能率を高め、第五に品性を高めて監督者の要らぬ様に職工の教育をして、さうして此の日本の工業に従事する勞働者の程度を高め、どうか亞米利加や英吉利に負けないやうにしたいと考へて居ります。甚だ詰らぬ事を申上げましてどうも……………。(完)

## 淺野綜合中學校設立趣意

淺野綜合中學校ハ我國ニ於ケル現代ノ要求ニ應ジ社會ノ趨勢ニ鑑ミ國民道德ヲ鼓吹シ實業上ノ藝能ヲ授ケ堅實ナル中等國民ヲ養成セントスルニアリ歐洲大戰ハ遂ニ平和ノ局ヲ結ビシト雖モ國際ノ關係ハ不幸ニシテ未ダ永遠ノ安定ヲ見ルニ至ラズ各國社會上ノ不安ハ豫想外ニ激甚ナルモノアリ此時ニ際シ我國ノ國際的位置ヲ向上シ國內ノ民心ヲ統合シテ鞏固ナル國家ヲ形成シ大和民族ノ精華ヲ發揮スルニハ詢ニ教育事業ニ俟タザルベカラズ而シテ特ニ最モ人格養成ノ絶好期タル中等教育時代ノ教育ニ俟タザルベカラズ。

現今我國ノ中等教育ハ一般教養ニ重キヲ置キ高等教育ノ準備機關タル觀アレドモ卒業生ノ過半數ハ中等教育ヲ以テ最終ノ學校教育トナセリ然ルニ實際生活ニ關スル智識技能ハ閑却セラレタルヲ以テ其ノ社會ニ出ヅルヤ彼等ハ往々ニシテ就業ノ方針ニ當惑セザルヲ得ズ而シテ一般農工商ノ實業教育ハ餘リニ技能ノ分科ニ偏シ國民教育ヲ施シ剛健ナル人格ヲ養成スルニハ未ダ満全ナリト稱スル能ハザルガ如シ。

淺野綜合中學校ハ創立匆々ノ間ニ在リテ設備未ダ成ラズ内容充實セザレドモ志ス所ハ此教育界ノ缺陷ヲ補填シ大正ノ新時代ニ適應スル新教育ヲ施シ智能ノ啓發ノミナラズ品性ヲ陶冶シ藝能ヲ實習シテ勞働ノ神聖ヲ體現シ國民トシテ將タ人トシテ人生ノ意義ヲ完ウセシメント欲スルニアリ。

若シ夫レ特色トシテハ體育ヲ勵行シ相互扶助ノ共同生活ヲ勸奨シ工場ヲ設ケテ藝能ヲ授ケ科學教育ヲ實驗的ニ施シ語學教育ヲ實用的ニナシ廣キ綜合的ノ教育ヲ實踐シテ常識アル有用ノ人材ヲ養成シ我國ノ中等教育ニ新生面ヲ開カンコトヲ期ス。

此の趣意書は參拾年來の恩人淺野翁が百萬圓の財團法人淺野綜合中學校を創立せられたる大正九年二月に、翁の意を體して感激の餘起草せるものにて、加之自分が四十年來、精神上的の師父として尊敬せる徳富先生の手批を経たるものなるを以て、綜合中學に關する此の小冊子を還曆會にて印行せらるゝに當り刺愛するに忍びず、卷末に掲げて兩大人に敬意を表することゝなしぬ。

後進 水崎 生 記

昭和六年七月五日 印刷  
昭和六年七月九日 發行

非賣品

著者

橫濱市神奈川區立町一七一七

水崎基一

發行者

京都市上京區新北小路町  
同志社大學內

淺野惠二

印刷者

京都市烏丸通今出川上ル岡松町

平野書店印刷部

京都市烏丸通今出川上ル

發行所

平野書店